本書御覧の諸君に特別懇望書

謹啓本書進呈仕候に付ては諸君には御閲覧被[illegible]下候事と恐察候右は小生慮外の本望に御[illegible]座候[illegible]本書御覧の諸君に對し聊か御願[illegible]候其は別儀に無御座今般本書御覧[illegible]の詩歌文各御随意の御揮毫を仰き[illegible]家筆鏡としこれを雙親膝下の本書に關する無限の慈愛に報ひ度候に付何卒諸君是非に一集御揮毫御郵送被成下度謹て奉願上

候也早々頓首

岐阜縣不破郡青墓村

今井佐太郎再拜

諸太家各位

閣下

人種政治自序

非常の時には非常の斷なかるへからす意外の事には意外の考なかるへからす今や東洋に代議政躰始めて黄色人種に行はる黄面黄躰なる吾人爰に始めて眞成參政の大權に加はるを得たり豈又大幸巨榮最大名譽にあらすや然りと雖ㄈ吾人漸く代議政躰の起りしを以て未だ俄かに學理上に於ては大名譽と東洋數億萬の同胞黄色人種に誇るに足らさるへし大凡事を創むるは易く之れを完成するは難し代議政躰に於けるも亦然り之れを行はんとすれは黑色人種も盖し行へは

人種政治自序

非常の時には非常の斷なかるへからす意外の事には意外の考なかるへからす今や東洋に代議政躰始めて黄色人種に行はる黄面黄躰なる吾人爰に始めて眞成參政の大權に加はるを得たり豈又大幸巨榮最大名譽にあらすや然りと雖も吾人漸く代議政躰の起りしを以て未だ俄かに學理上に於ては大名譽と東洋數億萬の同胞黄色人種に誇るに足らさるへし大凡事を創むるは易く之れを完成するは難し代議政躰に於けるも亦然り之れを行はんとすれは黒色人種も盖し行へは

行へさるにあらす現に亞弗利加のリヘリヤの如きは共和政躰にして代議政躰行はるゝと雖ども元米國の發動に係り自動的に起りしものに非す他動的の設立あり故に原流白色人種代議政躰者には感賞を與へさるは勿論其自國は數十百年後の將來に亘る運命如何は以て計るへからす偖東洋の代議政躰は黃色人種間の事嚆矢にして代議政躰の適否に關し實躰的の一大試驗にして世界中萬國の歷史上に一大記事を增加せしものと云ふへしされは豫期に違はす代議政躰利運妙用するに於ては東洋同胞數億萬黃色人種將來の艮

教師たり好手本とおるへし實に最大名譽の上に最大名譽なり加之ならす白色人種も亦獨り代議政躰は其專有物と誇るに足らす却て此實驗を觀て之れを驚き之れを賞すへし必す吾人は斯く成るを希望す又必す斯く成るへし吾人本書の疑團は杞憂に歸すへし又杞憂ならんを希望す然れとも萬事事物は其表裏を觀察研究するは學理世界の領分にして能く其論議を遂くへきおり若し東洋黃色人種に萬々一億々一にも代議政躰の運用を誤る事あらばは果して豫期する黃色人種同胞の艮教師たるか好手本たるか白色人種驚くか賞

するか而して又自からは最大名譽と誇るに足るか未た吾人は明言大呼する能はさるなり然れとも決して此の萬々一億々一の場合は必定見る憂なきは勿論なれとも東洋黄色人種間創立の代議政躰は尋常普通の顯象にあらされは東洋の朝野政治家深く注意盡力を要するは無論苟も又學理を研究するものは各自其所見を論述して其可否を論議すへきなり吾人此の意を以て本書一篇の疑團をなしたるものかりと云爾

于時明治廿四年七月下旬　　編者今井佐太郎述

凡例

一本書は余か近年學理上黄色人種と白色人種と政治の關係あき哉の疑問にして固より意見叙述書籍の躰裁を具備たしるものにあらす殊に余は學淺く文拙く唯讀者に其意の通せさらんを耻つ

一余か此の疑問に付き有名の博學諸大家へ教諭を乞ひたる三百餘通にして教諭せられたるあり又多忙にて謝絶せられたるあり或は謙遜して謝絶せられたるあり何れの來翰も懇篤厚情の溢れたるものにして皆之れ當今有名の諸大家の高見かれは盡く之

れを本書に列記せり

一博學諸大家の教諭書及ひ返翰は渾て郵書到着の順序に從ひ記載したるものなり

一博學諸大家にして本書記入に漏れたる尠なからす之れ其諸大家の現在住所の不分明にして疑問書を寄送する能はさるものと又郵書を寄送し再三教諭を乞ふも何等の通信の榮に接せさるとによれり

一本書中數葉の繪畫を挿入したるは余の淺學不文爲めに疑團の示し難きもの又意思の通せさるものあれは繪畫の力を借りて之れを補助し且明瞭ならしめんか爲めかり

一此繪畫は余か親愛の友人某氏か本書編者の意を賞し好意を以て余か乞に任せ其得意の鉛毛を揮はれたるものにして余は爰に其好意を謝せさるを得す

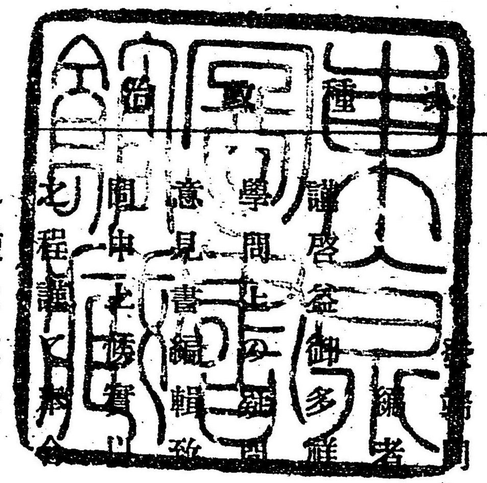
一本書出版の幸榮は全く博學諸大家の好意厚情に成りたるものなれは余は謹て諸大家より教諭書を賜はり又尊翰を賜はりたる方々へは本書一編を奉呈し尊意の万一を拜謝するものかり

一本書出版に至る迄前後三年に亘り三百餘金を費したり其費用は盡く雙親膝下か自身の快樂を殺きて

惠まれたるによる此の無量無邊限りなきの慈愛に對し余兩眼を拭ふて深く雙親に拜謝し爰に本書に特筆あるものあり

一余は右の疑問を本書に再述し之れを卷末に記入せし故或は復た博學諸大家の電覽に觸れ諸大家余の淺學と熱心を憐み教諭書を惠まるゝ事も哉あらん果して斯る無上の幸榮を得は更に之れを集めて本書第二編を出版する事あるへし

○附言本書草稿には繪畫を挿入したれとも故あり て之を省略したれは讀者之れを諒せられん事を



答之部

疑問書郵送案

岐阜縣　今井佐太郎編述

被爲渡候儀奉敬賀候陳は小生近年左の如き種啓益御多祥

學問上ニ付疑問相起り候間博學諸大家に質問申候上諸氏の意見書編輯致度に付今般尊君に對し突然書狀を以て御質問申上候事ニ

て御繁用の處恐縮千萬に候得共何卒御敎諭掌候偖小生の學問上の疑義と申候儀は黃白

八種は政治の區別を生する原因にはあらさる哉に御座候其譯如何と申せは西洋と東洋との各國八種黃白の區別有

之儀は何人も一目瞭然の次第にて且其各人種の性質氣分人情の相違も判然たる儀に御座候去る程に東洋諸國の開化は古代に相進み居り候にも關はらず未た代議政躰は歷史上更に不相見却て東洋より遙か後時代に開化に入り候者代議政躰に發達致候儀は如何にも不審の至りにて開化前後の順序より數理的に相押し進化的に相考候得は必ず東洋に代議政躰相起り西洋に代議政躰不相見候社至當本然社會進化の道行きと被相考候之れを花に例ふれは早く蕾を結ふ者は前に咲き後なる者は後に咲くは天地自然の定則と可申候尙又之れを人間の情慾に比するも大抵情慾の發すへきは十一二より二十歲頃迄に發すへき次第にて其時期に發せすして六七十歲に至り漸く他人の情事を見て之れに感し情慾を發すへき者は無之事と相考候然るに今日東洋に代議政躰か相起り候場合に至りたるは決して社會自然の發達には無御座唯西洋の文化開明上の諸事を摸擬し輕便利益を感したると同時に代議政躰も亦眞似したる候哉の觀無之とも申兼候右は恰度古代開化前後の時期より相考候得は十七八歲の男女に六七十歲の翁妣か情事の稽古致し候哉とも被思候右情事相通すれは至極喜悅の次第なれとも萬一東洋黃色人種は代議政躰には情事無勢力閉鎖の不具人種には無御座候はすやとの懸念相生し候試みに逢ひ見ぬ昔し則ち東洋人種か西洋人種の代議政躰を知らさる時を思ひ廻せは東西交通なけれは今日東洋に代議政躰の起るとは如何なる學者も蓋し明言す

問答之部

るに難かるへく否決して代議政躰は起らさるへく相考候
夫れは兎に角黄白人種は政躰の如何に關係無御座者に哉
高見御洩し御教諭の程伏て奉合掌候頓首再拜

今井佐太郎敬白

各博學諸大家宛

二白諸大家の御教諭書五十通以上に及へは出版可仕候其
際更に御照會不仕製本の上差送り申上候間其邊御含み置
き被下度奉祈候也

編者再問書郵送案

拜啓益御賢勝奉恭賀候然れは先般御願申上候黄白人種と
政治との關係に付ての疑問御教諭書奉待上候何卒御教諭
被成下度乍恐縮謹て再應奉合掌候草々頓首頓首

人種政治

各博學諸大家宛

編者三回問書郵送案

謹啓益御清榮奉賀上候陳は昨冬十二月中兩度學問上人種
と政治との關係如何御教諭被成下度次第御願申上候處今
に御教諭無御座右は御繁用故と奉恐察候然る處尚又御願
申上候儀は如何にも縮入候得共小生の微意御垂憐御教諭
被成下度謹て奉祈候謹言

今井佐太郎再拜

各博學諸大家宛

今井佐太郎再拜

○右に掲載する再問書三回問書は本編に記する要なしと
雖とも最初諸大家へ數十通質問書を寄送せしに之れに

對し諸大家の教諭書或は返翰を辱ふせしもの僅に數通
依て又編者は二回三回と問書を郵送せり故に多く諸大
家の教諭書又は返信に毎々或は度々等の語あれは爰に
之れを記載せり尚又編者一言すへき事あり最初質問書
を諸大家に寄送せしは時恰も我か大日本帝國創立に關
る國會開設に際したれは何れの諸大家も皆繁務多用に
して隨て教諭書或は返翰の後れたるものと信す

○編者の諸大家へ質問書或は再問書等を寄送したるは自
ら筆を取り認むれは送り送れは認めたり故に明治二十
三年とあれとも最初の事にして其後執筆寄送せしもの
數百通なり然れとも諸大家に寄送せし質問書は國會開
設中の日子を限りとせしなり然れとも餘義なくして其

後に郵書せしものあり

博學諸大家之意見及返翰書

明治二十二年十一月五日着

加藤弘之樣

拜讀御質問の件は隨分重大なる事と存候得は輕卒の御答
可致筋とも不存候得共小生の一應考候處を以てすれは東
洋は夙に開化致候得共早き丈けに唯々上等社會のみの開
化して中等以下は此開化に預らす故に代議政體抔云ふ所
に迄は及はす所謂專制政治にて安し候事と存候西洋今日
の開化は先つ全社會の開化と存候夫れ故代議政躰の起ら
さるを得さる事と存候但し日本の代議政躰は全く西洋眞
似なれは歷史的に生したるものとは云ふへからす全く脇
の方より來りて附着致候樣の姿に有之事故此政躰か實に

程よく成長すへきものや如何は小生も掛念致居候次第今日小生の如き近眼者にては迚も何とも豫言は出來不致事に御座候先つ今日相考居候事のみ御答及候匆々頓首

渡邊洪基樣　　明治二十二年十一月廿四日着

去る十日同十九日貴書披見仕候拙者儀多忙之身に付貴問に對し御答可致暇無之且如是問題は輕々論斷すへき筋のものにも無之と存候仍て右及謝絕候也

寺島宗則樣　　明治二十三年十二月十四日着

貴書御質問の趣判然解し兼候間御面語其邊承るにあらされは回答難及候也

河津祐之樣　　明治二十三年十二月十四日着

芳翰拜讀御來示の件は時節柄至極面白き問題と存候に付早速愚見を草し梧右に呈し度は本意に候得共帝國議會開會中の今日にも有之公務殊の外繁多にして一寸の隙迚無之事故遺憾の至りには候得共折角の貴需にも應し兼候間御海涵可被下候此段不取敢貴答まて草々拜具

穗積陳重樣　　明治二十三年十二月十四日着

黃白人種代議政躰云々の儀に付御尋問に相成候處拙者此節多忙寸暇も無之乍不本意貴需に應し兼候段不惡御了知被下度貴答迄如斯候也

海江田信義樣　　明治二十三年十二月十五日着

拜見仕候時下御安康被成御座奉敬賀候陳は御學問上御疑團云々御質問に相成敬承仕候小生無學御即答調へかね申候御面會の幸を得候はゝ萬御高說を伺ひ其折に讓置申候

御答迄繁忙中草々御仁恕可被下候也

○○○○様

明治二十三年十二月十五日着

拝讀仕候陳は黄白人種政治上區別の儀に付き御疑團有之小生へも御質問相成拝承仕候御趣意の有る處を推察仕候に黄色人種諸國は開化古きも代議政躰會て無之白色人種諸國は其新しきも代議政躰あるを以て見れは黄色人種諸國は代議政躰に適せさるものならんとの事の樣に相考へ申上候然れとも支那の如きは所謂黄色人種中其開化の古きものには相違無之候得共我邦の如きは決して古きものとは難申上存候且又白色人種即ち今少しく學問的に申さは印度歐羅巴人種にてもグリシヤの開化は頗る古く印度の開化は更に古く若しセミチック人種をも所謂白皙人種中に算すれは埃及の開化の如きは實に古きものに候間右人種の開化は黄色人種の開化より新しきものとは難申と存候故に御疑團の基礎とせらるゝ所未た確乎ならすと存兎に角代議政躰は長く白皙人種の或る部分に發達し支那日本等黄色人種間には歴史上未た曾て見さる所にて貴説の如く眞似には相違無之も始めて我日本にて國會なるもの開設相成其結果如何は學問上極めて面白き問題にして御同樣の一生中には其結果可相分と存候間樂みに御座候多忙中御答大略如此御座候匆々頓首

鳩山和夫樣

明治二十三年十二月廿四日着

拝復御尋の問題には答辨致しかたく候

内藤耻叟樣

明治二十三年十二月廿五日着

度々御書面奉謝候小生儀は西洋の書をよみ不申候間御尋の義は御答申上兼候但代議政躰之事は後漢書之外國の傳之内に相見候間至て久しき事と存し候彼國にては古來より然る者と相見候他に申上候樣は御免可被下候以上

谷　干城樣

明治二十三年十二月廿五日着

御手紙再度拜見致し候多事にして御尋に答候暇無之候間御斷申上候不備

黒田綱彦樣

明治二十三年十二月廿五日着

拜復過般より再度之華墨拜誦仕候得共御質問の義は哲學上の疑義にして小生等平常修學する所を以て能く御答は爲し得る義に無之候間乍遺憾御斷り申上候不悪御洞察可被下候草々頓首

田中芳男樣

明治二十三年十二月廿六日着

毎度御文通に相成候得共此節甚た多忙ゆへ何分精く御答致候事六ヶ敷候間御斷に及候因て先達ての御狀返上仕候匆々

津田眞道樣

明治二十三年十二月廿六日着

過日突然貴書を得御質問を辱うす然れとも鳥渡難問にて貴答に困しみ候際又候御催促を蒙り候に付不取敢拜答左の如し

黄白人種開化の先後は何れに在りしと云ふこと明白なら す黄人の開化は支那を以て尤古しとし白人の開化は印度を以て最舊とす其年月明瞭ならすと雖も何れも今を距ること五千年以上にあり故に十七八年の男女に六七十歳の

翁妣の譬喩は當らすと思考す
代議政躰の踪跡は白人種にては三千年以上にあり黄人種
は君主専制の跡のみにて協議のことと見へさるは其原由あ
ることゝ信すれとも代議政躰東洋に行ふへからさるもの
には非るへし唯其進歩の度に前後あるのみにて其性質に
非すと思考す唯此のみならす理學の如き彼は數千年前よ
り其思想に富み我は否らさる如きも黄白人種の性質然る
にあらす唯其進歩の度に前後あるのみ
右は貴答の趣旨のみ詳なることは多忙にて回答すること
能はす不具

井上正一様

明治二十三年十二月廿六日着

拝復先頃御申越の黄白人種と政治上の關係に付ての疑問

答案の義は何分多忙無寸暇起草致兼候間宜敷御聞取被下
度右御答まて申候卿々

中島信行様

明治二十三年十二月廿六日着

過日來再度の御書翰逐一拝讀仕候仰越の御疑問は中々重
大の問題にて淺學の小生に取ては御確答難申上義に存候
折角の御來書可應が本意に候得共只如何せん小生が淺學
非所及候はゝ此段不悪御海恕被下度存合一書差出し候他
事不悉

箕作麟祥様

明治二十三年十二月廿六日着

拝啓先日御尋に相成候黄白人種と政治との御疑問小生に
於て別に意見無之候間此段及回答候也

木下廣次様

明治二十三年十二月廿六日着

頃日御尋の問題は東洋の一難問題のみならす近刊の西洋雑誌などにても學者達の一大疑問として論説相見へ申候御不審の條々は數十年經歷の後に非らされは相分申間敷儀殊に私等如き薄識淺學の者の判定し能ふ問題とは不存申候哉や多少の論有之候とも公言する丈の材料は未た領知不仕候右御答迄如此謹言

末松謙澄樣

御書面拝見仕候へとも小生義至て多用の上淺學にして充分の取調も難仕爲めに御疑問に御答へ申兼候間不悪御承知被下度此段御答仕候草々頓首

○○樣

明治二十三年十二月廿六日着

謹啓陳は本月初旬頃御差向け相成候御質義に對し早速御

答可仕の處公私用共頗る繁雑にて乍存滞延致候段御仁免奉祈候然るに去る廿三日附を以て再應御督促を辱し前段遅延の罪何共恐縮の至りに候得共元來右の問題たる學理に徴し歴史に照し頗る考察を要することにて彼の社會學家政治學家等に於ては曾て研究を遂けられたること有之哉は不存候得共學理は實驗より生するものなれは古今の歴史に就て例證無之には如何なる學者と雖も徒に空想の推理より如斯大問題を決定するは不能事と存候將又人種學人類學の如き科學家に於ても尚此問題は研究可致事柄と存候得共小生の如き右問題に付ては平素聊か思考を向候事も候得共深く勘考致し候事も無之に付何分御返答に及兼候間乍延引御返答致兼候次第相述御斷迄如斯候

也

山脇玄樣　　明治二十三年十二月廿七日着

兩度の御紙面正に落手仕候御返事延引平に御海恕を請ふ
當節公務多忙何分御依頼に應し難し此段御了承被下度候
敬具

井上毅樣　　明治二十三年十二月廿七日着

拜啓生所勞ニ付御答致しかたく候間左樣御承知被下度候
右貴答迄匆々頓首

西村茂樹樣　　明治二十三年十二月廿七日着

御郵書拜見然は黃白人種と立憲政即代議政體との關係の
御考頗る面白き御考と存候得共老生は現今實用問題に付
着手せさるへからさる事件又考究せさるへからさる件甚

多く右樣不急の問題は考究の暇無之候間折角の御來意な
れとも何とも御答致兼候間此段不悪御領承可被下候先日
來風邪に打臥罷在貴答大延引に及候匆々不宣

阪谷芳郎樣　　明治二十三年十二月廿七日着

拜啓黃白人種の區別に依り代議政體成立如何御問合の趣
了承仕候右小生の考ふる處にては人種の如何に依り代議
政體の成否に關係する理は無之と存候尤も白色人種は知
識の發達遠く黃色人種の上に出てたるを以て今日に於て
は代議政體は白色人種の特有物なるかの如き觀あれとも
黃色人種の知識漸次發達するに至れは亦能く代議政體を
組織し得るは必然の儀と存候蓋し形體上の發達と知識上
の發達とは共に內外の狀況如何に基くものにして常に發

達變遷の上に遲速あるを免れす必す先に發達したるものか何時までも先達すとは期せられさる儀に有之候我日本人種は黄色人種中最も知識の發達したるものにして充分代議政體を實行するに堪へ得るものと斷定仕候此段及御答候匆々敬具

追て年末に際し多忙再應の御催促に相成り恐縮の至りに御座候

辻　新次樣

明治二十三年十二月廿八日着

貴翰拜見御來示之趣承知致候然る處近來殊之外繁忙を極め御質問に對し何分考案致し居候暇無之候に付折角御申越相成候得共右之次第に付及御斷候也

箕作佳吉樣

明治二十四年一月一日着

御申越の疑問は學術上疑問の躰裁を爲し居らさるものと愚考致候此の如き疑問に付彼是申候共憶測の外には出さるへくと存候

今日となりては我國に於て代議政體をして眞果を結はしめんと務むること人々の義務と存候

右御返辭まて草々頓首

菊池大麓樣

御質問の件は小生應答可致性質のものに無之候也

西　周樣

明治二十四年一月七日着

舊年十二月中兩度接貴翰候得共何分繁用中殊に家事にも累多く延引致候段御宥免被下度候偖高說にては代議政體は人種に因て發育すへしとの樣に相見候得共小生は敢て

贊成不仕候成程今にては諳尼魯沙吉孫人種の專有の如く見へ候得共必す左樣斗りとも極められ間敷哉に存候支那往古にても堯舜官天下の風今一層明備に候はゝ即ち共和政と不相成哉とは難申要するに夏禹一度子に傳るの風を開きしより君主專制の風を興し候事にて遂に後世茲に思ひ至り候もの莫きのみ然るに苟も摸倣して已まされは遂に眞物たらさる哉患へさるなり譬へは銃砲戰艦の如き今既に摸倣して成就したる者勘からす何そ獨り形面上の事は得て學ふへからすと謂はん耶昨今の國會の如き聖意の公明仁慈なる誰か疑ふものあらん唯願くは上下兩院其美に奬順して以て成すあらは實に我國千歲の美事のみならす此亞細亞洲中に先鞭を着する者に非らす歟右僕

か臭說に有之候聊御答迄如此委細は面晤ならては盡不申候尤僕近來中風病にて言語も判然ならす言所不悉意不宣

古澤滋樣　　明治二十四年一月十一日着

扉書黃白人種に依りて政體適否之御疑縷々御示及承了然に是等問題は學理上深く推究を要し候事にて迚も淺學小生輩の及ふ所に無之乍去舜何人哉我何人哉小生は唯力行如何に在るのみと奉存候右不取敢貴答而已草々如此不二

梅謙次郎樣　　明治二十四年一月十三日着

御尋問之件中々高尙之問題にして小生も未嘗研究を盡さゝる所に有之候得共敢て人種之異同を以て論すへき義には有之間敷存候答復

板垣退助樣

明治二十四年一月十四日着

拜復御書面拜讀致候然るに小生當時頗る繁忙且つ病氣に有之貴意に應し兼候不悪御了知被下度候匆々

明治二十四年一月十四日着

中江篤介樣

御示及之一事は學術上八釜敷問題に有之此儀を講究せんと欲せは爲めに幾部冊新古書をも披閲せさるを得す生儀日々公私用事蝟集何分にも貴命に難應不悪御思召被下度候再拜

西村貞樣

拜復御下問の趣承了然るに小生固淺學貴問に對して世に公にすへき程の意見を有せす且此程は公務上巡回等頗る忙しく旁以て貴需に應し兼候此段御答申上候頓首

元良勇次郎樣

明治二十四年一月十六日着

貴書拜讀御申越の儀に付回答延引の段御用捨被下度候扨代議政體は白人種の特有物にして黃色人には適せさるものならんかとの御說は余の不可とする所に御座候國家は宵に個人の集合したるものに非す一の有機體なりとは此頃往々聞く所にして余も亦之を可とす左れは其國家の發達は又一個人或は他の生物の發達と同樣の發達に依ると雖ならん然るに生物中にも單一なる組織を有するものあり又複雜なる組織を有するものあり且つ高等動物及ひ人間の如きに至ては神經統の發達と共に精神の活動を有すると此精神を有する人間各個人合して國家なる大動物を組織するものなり是等の生物發達の法則に付きては其組織單一なれは其發達の法則一定するか如くに見ゆると雖

も其組織の複雜なるに從て例外の場合漸々增加し精神の活動の如きに至ては其例外なるもの甚た多し素より人情の變遷の如きに至ては身體發達の有樣と直接の關係を有すること疑ふ可からさることなりと雖も能力の發達特に高尙なる智力の發達に至りては身體の有樣と殆んと其關係を發見するに苦むものなり例へは高尙なる哲理を了解する如きは世人悉く望んて能はさる所なり唯僅かの人が之れを了解するものなり而して其僅かの人の中に於てもも壯年にして之を了解するものあり又老年に達するまで了解し能はさるものあり或は生涯之を了解する能はさるものあり是に由て之れを見れは其發達の有樣種々にして一定の規則を以て推し能はさるは勿論比論を以て之を論す

るも適當に非すと信す甲は二十歲にして哲理に通し世人に卓越す乙は四十歲にして未た其哲理を解する能はすと雖も之れ決して乙は生涯之を解する能はすとの證據には非さるなり此理を推して國家發達のことを考ふるに國家の發達は其大體に於ては他の有機物と同一の法則に依ると雖も其詳細に至りては有機物の發達或は一個人發達の理を應用して國家發達の理を定めんとするは大に殆きことにして余の敢て之を試みさる所否な斷然避く可きの論法なり例へは一方より考ふるときは希臘國家の開化死して羅馬國の開化を產出し羅馬帝國の開化死して封建政治を產出し封建政治死して現今の歐米の開化を產出せり抔と動物が其子を產みて死し又其子が其子を產みて死する

如くに論するものありと雖も他の一方より考ふるときは希臘開化の時代より現今の歐米の開化に至るまでを永き一代の變遷と見做すも可なり而して政治思想は西亞細亞の國民中に起り其れより希臘に至て大に發達し羅馬帝國は尚々之を發達せしめ追々成長して遂に現今泰西の代議政體を生するに至れり左れは代議政體の觀念たるや決して一朝一夕に白人の腦裡に浮ひ出てたるものに非す數千年經驗を積みて漸く今日の有樣に達したるものなり我日本の如きは二千五百年の昔に帝國の基礎を定め永く生活したるものなりと雖も他國と交際すると少なく僅かに支那と交際をしたるのみにして泰西の諸國と交際するは日尚淺し故に之れまて既に代議政體の觀念の起らさるは之

れ決して日本人民が代議政體に不適當なるの證據にはあらさるなり日本人民は將來に於て大に望みを期すへき人民なり素より之れまて經驗なきことを今新らしく爲すの今日に於ては其執行の手續上或は不都合なることなきを保證する能はすと雖も之れ決して余をして失望せしむる所に非るなり唯常恒余の憂ふるは日本人民の短氣にして且失望し易きこと之れなり忍耐して之を行ふに於ては日本國に於て代議政體の隆盛に達するは疑ふ可からさることゝ信す聊か述へて以て貴書に答ふること斯の如くに御座候敬具

河野廣中樣

明治二十四年一月十七日着

拜啓時下嚴寒之砌愈御多祥之段奉賀候扨て今般黃白人種

の政體に關する如何の疑義に付諸家の意見御纂輯の御目的にて餘生の意見如何の御質問を蒙り候處右は學理上の研究に係り候問題にて深思熟考の上ならては容易に御答可致事にも無之然るに御承知の通目下帝國議會開會中にて頗る繁務愚見を附する暇無之折角の御質問に對し御需に應せさるは誠に不本意に御座候得共前條之次第不悪御諒察被成下度右貴酬まて匆々如此に御座候不宣

山縣伊三郎樣

明治二十四年一月廿一日着

拜啓陳は黃白人種政治の區別云々に付先般御質問に預候處公務上殊の外之多忙を極め何分研究の暇無之目今の處にては到底御請求に應し難候間此段御斷り旁得貴意候也

敬具

齋藤修一郎樣

貴翰拜見陳者人種と政體の關係に付縷々御質問之趣有之候處目下貴問に應すへき意見を有せす候條折角之御質問に候得共御答申上兼候此段及御斷候也

渡邊國武樣

明治二十四年一月廿六日着

黃白人種と政治と關係意見之儀早速相調差出可申候處舊臘以來非常多事春來インフルエンザ等にて遂に其意を果すを得す悚然之至不悪御汲察被下度要するに人種論は後天に起り殆んと先天を成し居候得共いつれ之人種いつれ之政治も先天之儘なるは無之見込に候至急御斷のみ如此御座候

林有造樣

明治二十四年一月廿七日着

御投書致拜披候處先日來は病氣に有之且新聞紙に御承知ならん豫算案一條且立憲自由黨之種々之困難等にて病中なから如斯用事有之御尋問之條等熟考致候事不相調頗る關係の重大事件に候得は直に御返答難致候へは一應御挨拶のみ申上候也

柳原前光樣

寒威嚴烈之際新年益高榮慶賀候本月貴翰來着其趣敬承候黃白人種と政治との關係如何御尋大問題と存候熟考不致ては輕擧に御答に難及候上小生昨冬以來腦病に罹り痛疾に罹り于今全癒に不到加之一月以來風邪に罹り又脚病胃疾も起り于今病養中に有之加之に家族に病は多く實に困難之至に候間御答及延引候此段乞宥恕推察候拜復不盡

明治二十四年一月廿八日着

貴說中に所出の黃白人種とは西洋及米印度其他の外人を指したる者たる乎又は日本の政黨を黃白に別ちたる意乎不判然に存候是又爲念及御尋候試に御一答を乞ひ候也

寺尾亨樣

黃白人種云々之問題に付態々御問合に候得共小生は純粹法律を修むるものにして本問題の如きは小生の專門以外に涉るものに候得は何分の答解出來兼候尤も小生學問外之事として强て考案を附し候はゝ或は多少之意見は相付き可申候得共左すれは學問上を離れたる普通の考案に候得は小生の意見を御求め被成候も何之價値も無之義と存候間折角の御問合に候得共右答解之義は御斷申上候右乍延引匆々拜復

東久世通禧樣

明治二十四年一月廿八日着

昨年來毎々御催促相成候論文事舊臘より窒扶斯病にて引籠居候間御返答之儀御斷申入事

水野遵樣

明治二十四年一月廿八日着

拜讀益御安泰奉賀候然は昨年黃白人種と政治との關係に付御問合せ有之候處右は史學並人種學等に關係不尠容易に臆斷を下し難く候就ては今回之御要求に對しては御答仕兼候間左樣御承引可被下候尤人種之如何に依らず立憲政治を行ひ得るの例議は目今我衆議院及貴族院に於て日々世界に宣揚中に有之候間此一點は別段研究を要せさる事と奉存候頓首

再申候議院燒失の爲め彼是多忙御答延引之段御免可被下候

伊東巳代治樣

明治二十四年一月廿八日着

未拜接之榮を不得候へとも再三華書を被寄一々着讀候小生儀昨歲晩以還病痾にて引籠居近頃他症を併發し于今臥褥罷在候次第にて奉答を惰り候段御宥恕可被下候扨今比態々花書を賜り御垂問を蒙り候事抔は面白き御思付と存候へとも淺學寡聞之小生迚も貴意に酬ふ能はさるは勿論當節は格別に多忙に有之精考執筆之暇も無之に付乍殘念拜辭仕候間不惡御推知可被下候先は延引拜復迄草々不盡

高橋五郎樣

明治二十四年一月廿九日着

先頃御封入之郵券加封返納仕候其頃不心付昨今發見いたし延引之段是又御斷申上候

再三の御尋に候處大問題なれは私などには容易に御答申

し難く候然れとも黄白は斯る事の區別をなすの標準と爲すに足らす現に黒人にして代議政體を圓滑にやりをる者も有之候私は貴下の質問の寧ろ兒戯に等しきを感せすんはあらす但し學者は觀察と實驗とを以て確かめたる事に非されは妄りに口外せす請ふ小生に尚若干の年を貸せ其間に緩々觀察せん實驗せん臆斷は信憑するに足らす且又西洋と雖とも立憲政體の出來たるは只僅かに此世紀(十九世紀)のみ故に此世紀を「憲法世紀」と稱す然れは貴下の第一の根據は已に倒れん何そ又其他を論せんや乞ふ人類の唯一なるを信せよ黄白は唯偶然の外觀のみ頓首

小中村清矩樣

明治二十四年一月廿九日着

拜啓甚寒之節益御佳適奉敬賀候扨は「黄白人種と政治との關係」右に付縷々御高論御示被下拙見も候はゝ差送候樣御郵書に御座候處右問題の如きは老生不得意之筋にて更に御問に應し兼申候右之趣とくより可申上之處多忙中迂延定見無之隨て御答可申方も致兼候間折角之御尋に候得共御書通再三に及候段御海容可被下候頓首

伊澤修二樣

明治二十四年一月三十日着

拜啓度々御文通之處御申越之問題は小生之淺學にては何とも御答難致候間右に御承知相成度候以上

中村正直樣

明治二十四年一月卅一日着

拜讀仕候先以御起居佳勝奉抃賀候黄白二種論差出可申樣度々御懇諭被下候處今以延引仕候外之儀には無之小生黄白二種論に於て毫も所見無之議論無之に付只管不學之所

致に御座候決して等閑に致し候に無之左樣御了知可被下候

岡村輝彥樣

明治二十四年一月卅一日着

陳者折角之御申越には候得共當時公私の用務多端にて何分執筆の閑暇無之右一應御斷申上候間左樣不惡御了承被下度候也

國府寺新作樣

明治二十四年一月卅一日着

拜答每々御手紙を戴き恐縮の至に存し候陳は小生儀昨冬病氣にて全く筆硯を廢し居候間御問合の儀に就き急に御返事致兼候段宜しく御斷奉申上候匆々

小藤文次郎樣

明治二十四年一月卅一日着

御書面之趣拜承仕候扨御問合の主旨は東洋金色人種は歐

米銀色人種の如く代議政體を立て之れに賴て永久福利を享くへき天性あるや否やの如く推讀仕候此問題たる本邦立憲政體創立の初期殊に議會開設世論囂々たるの今日に當り最も緊要なる事項の如く考へらる然るに迂生は元來無機物世界を專攻し地質學を學ふものに候故人類的の項は本務と甚た緣薄く最も其道に不案內なれは御書面披見後も實は其答案を草する事に躊躇致し居り候所再三の御督促に預り粗末なるにも拘らす左の如く簡畧に申述る事とは相成れり

小生は貴君と全く反對の意見を有するものにて人種と政體とは關係無きものと存し候歐洲に立憲政體あり東亞に君主專治の制あるは人種の金銀色なるに依て斯く差を釀

したる者に非す風土全く東西政體を異にせしむる者と信し候元來東洋の文明は古く綻蕾し一種特色なるは諸人の一も二もなく認知する所にて此特色文明は其産出支那にあり依て支那の事に就き少しく述へさるを得さる義に候」

今支那の國土を按するに支那に固有の文明開發せし事は少しく其糸口を求むる事を得へし支那は四方より遮斷せられし國柄にして西境は寒凜容易に進むへからす西は高台にして中央亞細亞の砂漠あり寒暑偏大なる而已ならす四方無限の砂地なれは交通自在ならす砂地に漂流し水草を逐ふて居住常ならさる遊牧且粗暴の民卽ち匈奴等は時々中央の高台より黄河の上流を經て低地の沃野卽ち中華を襲ひ中國人民の安寧を害し征伐せは又砂地に退き從て

逐へは從て來り昔より此牧民は支那の厄介物なり然れとも我より進て彼を殄滅若くは服從せんとするには滿面沙漠にして交通不自由なれは一國の金庫を擧て費すも其結果を見るを得す又地面を橫領するも磽确なれは寸毫も利する所なきを以て遂に支那人は退守保護の政策を取れり西南は西藏國の高臺あり支那本部の間には幾多の南北に走る山脈あり其間を流るゝ大河は或は印度洋に走り或は南北の支那海に朝す楊子江も其邊に水源あり此地山嶮に谷深く到底人の交通する事能はさるより古來內地に進むの路なし楊子江以南は山國にして廣東に到るに僅に二筋の道あるのみなり雲南省の如きは金銀に富むも地勢斯く不便なれは惣て南部地方を昔より南蠻と稱し開明の光透

入せす東は茫々たる大海なれは之れも亦昔日は通路の墻壁なりし

斯く四圍地勢の爲めに進張するを許さす加之なから東夷南蠻西戎北狄は皆中華は之れ寶庫なりと時機あれは乃ち中原を覩ひ多勢に無勢支那人は常に之を頭痛に病み晝夜退守自護の政策を講し又中華の地豊饒にして域外に出てさるも萬物供給充分なれは中原に土着し彼是れの事情遂に保守的の慣習を爲せり

斯く支那は四方を鎖し其内に閉居し而して國土豊なれは人口も増し永年月の間に一種の文明を作り出せり其國敎は無形のもの即ち儒敎にして下層大部の民には信仰力極めて薄き故に道德の主義透徹せさる事なれは一般に德義心に乏しく又人口非常に増殖し地面不足を告くるに依り相互の呑噬競爭起り其慣性凝結して有形上の情欲に富むは此國の特色なり又四方門戸を閉ち國外國あるを知らす四隣は蠻屬にして吾獨り人間なりと井蛙の管見大海あるを知らさるより自負心非常に發達し決して他を顧る事を好ます今日も尚其弊を排除する事能はす之れか爲め遂に開化は萎縮し死態と化せり故に少しく智力あるものは無感覺なる彼の社會に向て政權を弄する事易く專制政體最も適し代議政體なとは夢にたも見る事無し此外に尚ほ東洋全體文明の特色なる源因はモンスーン風の氣候にあり其區域は初夏に降雨多量なるより米作に適す米は食用の主料にして米作には田地を要し毎年耕作する事なれは自

領の土地を有するに至り遂に土着心起れりモンスーン風氣候米作の國は皆同色にして土着心に富み大地主は小地主を壓し小作者は常に服從せさるを得す逆へは全く地面を合併せらるゝの恐れあり服從に服從其慣性を爲し所謂自由主義なるものは發達するの機會を得さるなり代議政體は自由主義之れか根本にして到底斯の如きものは東洋に芽を發するの時を得さりし

東洋文明の特色なる理由は右にて其大要を盡せり之より西洋に就き數言を費すへし

翻て西洋諸國を見るに事情全く異りて國土東洋に比し甚豐饒なりと稱すへきものに非す氣候もアルプス以北は稍〻寒氣にして穀物の實成鈍し然れは獸類魚鳥に食を求む

るの必要あり手に鍬を取らすして弓矢銃砲を携へ原野に遊獵し又は海濱に漁し食料を獲て日子を送れり故に少々の地面にては事足らす原野海濱は共同の所有にして自己の領分を有せす獲物盡れは他に移轉し東洋の如く土着心無し青天蓋の下之れ我か家居となし心志自ら快闊にして自由の空氣を呼吸し性殺伐なれは互に自己の身躰と財産を保護せされは腕力に依て他より奪掠を蒙るに至る事情斯くなれは勢ひ自己の權理を主張せさるを得す故に弱き者は自身の保護に堪へす然れとも時に義俠心を起すあり中古には義俠心最も人の榮譽とする所となり今日歐米の婦人が意外の尊敬を男子より受くるは其源因全く茲に存せり各人互に權利自由を主張するときは未開の深林には

不都合なきも相集れは組合治り付かす又各人治者となるときは靜穩に日を暮す事能はされは委任代人を撰ひ身體と財産との保護を依托し尙ほも不安全なれは條規などを設け益々保安の道を講せり故に憲法を以て政府を立て役人は委托人即ち代人の性質を帶ふるものなれは政治自ら代議的政體とならさるを得す故に西洋に代議政體多數なり

東西兩洋に於て文明なり諸制度なり大に其趣を異にするは全く前述の如く風土の然らしむるものなれは當時の金色人西洋に移り其地に自然發育せしならは西洋の文明を得べし銀色人種東洋に發達せしなれは東洋の文明を作りなるへし故に予は斷して云ふ文明なり政體なり兩者に

異なる所あるは人種の如何にあらす全く風土の産物なりとす

却説次に講究すへきは日本は代議政體に適するや否やの一件にて予の如きは其道に緣薄く一言も此點に就き述ふへき見識なし矧んや事未來に屬するに於てをや元來日本は東洋の一國にして文明は支那より輸入し即ち東洋文明の質を帶ふることは勿論なり東洋なる諸國は概するに歐洲に比し赤道に近く稍暖なれは氣候も自ら差あり動植物の如きも寒暖兩帶のものの性質同しからす同し歐洲內とても南部人は耐忍力乏しく其性輕薄なるの欠點あり東洋の大部は氣候稍南歐に肖似する處あり今日本は東洋の文明を捨てゝ西洋の開化を卒急に輸入するの觀あり政體も彼

れに倣はんとするときは日本人の質耐忍力に乏しきと輕浮なるより意外に治者と被治者の交代他國よりも一層頻繁なるへしと想像せらる然れとも吾人日本の國民は之れに因て幸福を得るや否やは吾而已ならす世界各國の大政治家と雖も恐くは端知する事能はさるへし實に日本の近き未來は東洋に代議政躰の適不適如何に付き地上人類の之れを大試驗と見做し其結果を一日も早く知らん事を欲するか如し先つは貴問應答の爲め匆々

奥田義人樣

再度之御書面に接し意見申上さるも遺憾の至に御座候得共何分目下多忙にて委細申上る事相叶ひ不申只々此度議會の有樣を見ては立憲政躰は亞細亞人種には六ケ敷かと

明治二十四年二月七日着

の感有之申候右は不悪御推察被下候以上

富井政章樣

明治二十四年二月廿四日着

拜啓陳は兼て御尋起の件政體の一樣ならさるは黃白人種の異なるに原因する事には無之と相考候西洋に於て代議政治思想の發達したるは實に十六七世紀以後の事にて其原因を察するに中世封建制度の餘弊として君主の權力甚た强く專制の弊を極めたるを以て人民其壓制に窘しみ學者亦時弊を痛論し其極遂に佛國大革命と爲りたる者にして其影響歐洲全般に及ひたるものと考候東洋の開化は古代に於て進み居りたる事貴說の如く事實には可有之候へ共代議政治の必要を起發せしむる丈けの歷史上の事迹の存したるを見す要するに歐洲に代議政治の發達したるは

萬般の法律制度と同しく全く歴史の結果にして別に黄白人種の異なると直接の關係は無之歟と存候右乍延引卑見概畧申上候草々拜

江馬春熙樣

明治二十四年二月廿五日着

前略貴下近頃書を寄せ近來御懐抱の疑團乃ち東西各國の人種に黄白の別あり此種別あるより觀察を下せは黄人種か白人種の代議政を爲すことは天然不適合にして既に是迄になく今後とても若し東西の交通なくんは決して黄人種の間に代議政は起らさる、へし云々の儀を以て當今江湖の諸名家に就き其意見御質しありたしとの事に就き小生へも卑見の所在開陳すへしとのことを以てせられたり貴下常に一の僻村に在りて未た一人も世に此疑團を起せし者なきに先ち敢て此問を發す余深く其識見を敬愛する所なり但し此疑問たるや黄人種の間には決して代議政の起らさる者と爲すも一の想像説なり又否之を起す者なりと爲すも亦一の想像説なり想像の疑問に對して想像の説を答ふること到底之を實地に徴して其然るや否を確定し能はさる者に似たり故に不満足なからも此想像説をして成立せしめんと欲せは先つ之を歴史に照さゝるを得す勿論我日本及支那に於ては開國以來未た曾て代議政はなかり き然れとも之を推して今より數千萬年の後に渉ると雖とも果して代議政は人種の黄色なるか爲めに必す之を起すことなしと斷言し得へきや否やは亦容易に判定し難きに似たり抑々習慣は第二の天性と申すことあり支那と云ひ

我日本と云ひ又他の東洋諸國と云ひ其歴史上に於て今日迄代議政の起らさりしは或は其國の第二の天性乃ち從來の習慣に緣由し來る者には非さるなきや我國太古神代に於て八百萬群神天安河會議の擧ありて天祖使者を撰擇し亦必す衆神をして僉同しく議定せしむ云々これより列聖遺志を遵奉し事あれは必す下に諮詢し無爲にして化せり云々等のことあり是れ我邦太古神世に於て既に聊か代議政の原素を發生せし者に非さるを知らん哉其後支那の風敎我邦に入り尋て藤氏の專横となり源平より德川氏に至るまて總て專制の武斷政治を以て累世之を因襲し來れり故に上古に於ては既に聊か代議の原素を胎孕せしに其後我邦に武斷と云へる第二の天性乃ち習慣を生して遂に代議政の何物たるを夢想するをも知らす累世以て今日に至り

し所あらん歟支那に於ても上古虞舜の制に在りては卿相より庶人に至るまて言を得さる者なしと云へり又召公周の厲王を諫むるの語にも民之有口也、猶土之有山川也、財用於是乎出、猶其有原隰衍沃也、衣食於是乎生、口之宜言也、善敗於是乎興、行善而備敗、所以產財用衣食者也、夫民慮之於心、而宣之於口、成而行之若壅其口、其與能幾何、とのことあり又韓非子の語に智不敵衆、智不盡物、與其用一人、不如用一國、と云ひしことあり蓋し是等の語は暗に代議政の原素を發見して其代議政の造搆組織を知らす且つ其國の習慣爰に在らさりしを以て空しく其原素を埋沒し今日に至るも尙其國第二の天性乃ち習慣を脫却して以て既に代議政原素の上

古に發せしを開悟せさる者に非さることなきを知らん哉
貴下開化前後の順序に依り數理的進化的等に推して東洋
に代議政起り西洋に代議政の起らさるを以て社會本然進
化の道行と爲せり其國の歴史的習慣的等を度外に置きて
之を言ふときは理固より然らさるを得す然れとも國家の
事は建國及ひ歴史の如何に隨て其習慣を生し來る者なれ
は必す併せて之を考へ以て其如何を論すへきなり例之は
人の家に於ても舊きとて必す良なるに非す新しきとて必
す惡しきに非す唯其家の經歴如何に依りて大に其家風に
良否を生する者なれは強ら唯之を進化的に云ふへからさ
るに似たり貴下又此事を花に譬へ早く蕾を發する者は先
きに咲き後なる者は後ちに咲くは天地自然の道理なりと

但し此花には歴史なく習慣なし之を國家開明の先後に比
すへからさるか如し貴下又人間の情慾に譬へ東洋の代議
政を今日に學ふは猶老翁の情事を稽古するか如きことな
しや云々とのことを以てせられたり蓋し國家は其建國の
舊きを以て其血脈精神は全く人の老體に進みたる者と同
視すへきや否や又其國の新しきとて亦全く人の壯年に同
視すへきや否や蓋し恐くは適切の比喩にあらさる所ある
か如し冀くは爰にも亦其國の歴史及ひ第二の天性乃ち習
慣等を參考して以て其如何を判定致し度者なり抑〻上古
開明の風は曾て東より西に向て吹き付けたる者なりしか
近頃之に反對して西より東に吹け付けるに至りしことは
當今西洋の文物中古代の支那印度等より摸倣し之を改良

して用ひ來りし者多し是れ上古の歴史に照らして往々之を徴する者あるを以て知るへし左れは西洋の諺に代議政は日耳曼の林中より生せし者なりとの語あれとも或は上古支那等の名言を取りて之か原素を發達せしやも亦未た知る可らさるなり蓋し貴下の説の如く黄人種の代議政體に於けるは情事無勢力閉鎖の不具人種なるへきや禮記に云はく鸚鵡能言、不離飛鳥猩々能言、不離禽獸、と黄人種は果して鸚鵡猩々の類ならん乎然れとも是等鳥獸の能言は心ありて言ふに非す黄人種の代議政體は亦心なきや若し黄人種にして果して天然代議政に不適合の者ならしむれは其自ら之を起さゝるは勿論縦令今日之を激ゆる者あるも少しも之に感せさるとは猶人事を以て之を禽獸に激ゆる

が如くならさるを得さるなるへし蓋し之を要するに東洋に於て今日まて代議政の起らさりしは全く其國第二の天性乃ち習慣ありて因襲久しきに渉り永く之を知ること能はさりし者にして上古既に代議政の原素を發見せしか如き形迹あるを以て見れは代議政は蓋し造化の白人種に與へたる專有物なりと斷言し得へきや今より數千萬年の後或は大革命の後等に於ては縦令東西の交通なきも或は代議政の原素を崩生するやも亦未た知るへからさるに似たり但し今日東西の交通既に頻繁となれり是れも亦天地自然進化の爰に達せし者ならん而して代議政の東洋に傳はり來りしも乃ち進化の一にして黄人種の果して能く之を成し遂くるに至らは黄白人種の上に於て政治の何如に關

係なき者と稱せさるを得さる者ならん歟貴下苟も余の想像説にして幸に其採るへき所を擇擇せられんことを

箕作佳吉樣

明治廿四年二月廿四日着

再度之御書狀に御提出の諸問題は何れも皆遠大なる問題にして中には小生が特に務めなは答へ得るものもあるへし併し多くは小生淺學にして徒手も答へ能はさるものなり兎も角も小生之を論せんとする時も意も學力もなけれは平に御斷り申す外は無之候右御返辭まて

田口卯吉樣

明治二十四年三月一日着

尊書御問合の件の如きは容易に御答へ申上兼候容易に御答申候もの有之候はゝ是は必す踈漏杜撰のものに有之候小生近日非地租輕減論に滿腦の精神を注き罷在り貴兄の

御助力をも請度の場合迚も貴兄の御質問に答ふる暇無之候依て御斷申上候再拜

藤田茂吉樣

再三御書面之處生儀去る一月以來不快にて議院へも請暇を受け療養致居候次第百事廢却之仕宜に御座候右に付御下命之趣は到底難應御需候に付御斷申上候不悪御酌量有之度候也草々拜具

加藤高明樣

拜啓數度の貴翰拜見仕候貴下の御疑は人種と政治との關係如何則ち之れを換言すれは政體及政治の性質は人種の如何に依りて支配せらるゝや否と云ふ事と存候處小生の考にては政治の賢愚良否は人種の如何に依て生するもの

明治二十四年三月三日着

には無之と存候其適例を申さは日本近代の政體及ひ政治は悉く歐米より輸入したるものに有之上憲法より下地方制度に至る迄百般の法令一として我國自然生のものは無之皆歐米の制度を摸倣したるものに有之最初は白晳人種の制度は到底東洋人に適せすなと、無禮なる評を下す外國人も有之甚しきは日本人にても同樣の杞憂を抱く者多く有之候處其結果は一として好首ならさるはなく現に歐米人か至難とする所の議會政治も昨年より初めて之を實施したるに毫も障碍無之將に好結果を呈せんとするの有樣に有之國家多望之時に有之候日本人か右の如く巧に西洋の制度を移植したるは勿論支那人とても智德本邦人に讓るものに無之に付時運來るあらは支那人亦今日の頑固

奴に止まらさるへし右の如き例を以て之を觀れは政治の如何は人種に關係なしと小生は斷言するを憚からす御尋に依り愚見申進候也

尾崎忠治樣

朶雲拜誦愈御多祥御起居大賀の至に御座候陳は拙老へ向け御尋の趣有之每々御手紙被下候趣に候へ共如何之御旨趣に候哉其御手紙拜見不致候故別に御答にも不及曠禮之段御海容相願候然るに今般之御書面に依れは人種と政治上の關係云々の御尋之趣右等之意見一場之御話に致候事は格別書に筆し候事は少々迷惑の感し有之候間折角の御相談に有之候得共此義は及御斷度候間不惡御承諾被下度候乍延引貴酬迄匆々頓首

明治二十四年三月四日着

長輿專齋樣

明治二十四年三月十日着

拜啓曾て御壽に預り候黃白人種と政治の關係に就き卑見に於ては政體の如何は建國の由來に基因するものなるへく人の異同か政體に關係することは生理學上未た其理由を見出す能はす候敬復

平田東助樣

明治二十四年四月三日着

岐阜縣の人今井氏は奇癖の士なり一日書を余に寄せて曰く東洋の文明は前にして西洋の文明は後なり東洋諸國は其の創建既に數千載の古に在るも西洋諸國は未た數百年を出てす我は老成にして彼は少壯なり然るに彼は夙に立憲政體を行ふと雖も我は今日漸く之に倣はんとす若し夫れ國家は猶ほ人身の如く其の政體の如何は以て國家發育

の程度を卜するに足り專制政體は幼稚の國に行はれ立憲政體は壯健の國に行はるゝものとすれは我東洋諸國就中支那朝鮮の如きは其の齡甚た幼稚のものと云はさる可らす然れとも實際之を西洋諸國に比するに決して幼者と云ふ可らす然れは則ち今日西洋諸國に倣ひて東洋なる我日本帝國に立憲政體を行はんとするは恰も白髮の老翁か紅顏の小婦を娶り適以て其の餘命を短縮せんとするものゝ如し是に由て之を觀れは立憲政體は畢竟我東洋人種(黃色人種)の天性に背戻するものに非さるか東洋立憲政體の適否果して如何と

余其の問の奇なるに驚きて未た答ふる所あらす氏再ひ書を寄せて余の答を促す余尙ほ答へす遂に三且つ四に及へ

り是に於て余更に其の熱心なるに驚きたり古昔杞國に天地將に崩壓して身の寄すへき所なからんとを憂へて寢食を廢する者あり又杞人の憂ふるを憂ひて往きて之を曉す者あり杞人始めて舍然として大に喜ふ長廬子聞きて之を笑ひ子列子聞きて更に之を笑ふ今や似たるものあり余の筆を執りて來意に答ふるは氏の憂ふるの至れるを憂ひて然るのみ世に長廬子あらは其笑ふに任せん世に子列子あらは其笑ふに任せん」蓋し國家の意義及其の體裁に就きては古來其の說頗る多しと雖も人種と法律及國家(特に政體)との關係に至りては之を論したるもの甚た少く間々之ありと雖も要するに白哲人種の成せる邦國は最も完美なりと云へる過去の事實

を示すに止まり他人種就中黃色人種も亦進みて白哲人種と等しく後來完美の國家を成すことを得るや否やの點に至りては未た曾て之を論究したる者あるを聞かす實に從來の學者は立憲政體を以て白哲人種の專有物視したるなり然るに今や我日本人は他の黃色人種に率先して一躍彼の美制を採らんとす是に於て東洋立憲政體の適否如何の問題は忽ち世人の嘖々する所となれり此れ豈に國法學開化學及人類學上甚た緊要なる一大問題にあらすや

天神七代地神五代は余や淺學にして其年數を詳かにせすと雖も唯聞く天彥火瓊瓊杵尊降臨以來一百七十九萬二千四百七十餘載にして神武天皇に至り又二千五百五十年にして立憲政體と爲りたることを其の年代は尙しからすと

謂ふへからす然れとも日本帝國の果して幼なるや稚なるや耄なるやは余の知る所にあらす然るに氏は斷然日本帝國を以て白髮の老翁と爲せり知らす氏は日本帝國を以て猶ほ幾歲の壽を得へしとなすやを

特に奇なるは立憲政體を以て窃寵なる紅顏の少婦に喩へたるに在り知らす神道政治は幾歲の婦人なるや君主專制は幾歲の婦人なるや民主政治は幾歲の婦人なるやを政體若し婦人に譬へ得へくんは宜しく同姓を娶るへからす西洋より東洋人種に異姓なる立憲政體を娶るは豈に生理に適するものにあらすや

氏か國家を以て人身に均しと爲せるは如何なる論據を有するや之を知るに由なしと雖も人身的國家論は國家を以

て人身に比較し人身窮理の原則より國家の意義を説明せんとするに外ならさるへし然れとも人は有機體の原則に因り生死壯老必す一定の時期あり又其の種族は交接に依りて繁殖す之に反して國家は其の興亡盛衰必すしも一定の時期あるなく或は有力なる一大政治家の爲に時に其運命を左右せらるゝことあり然れは則ち國家は到底人身と同一に論することを得さるや明なり故に近來の國法學者は人身的國家論の非を悟り更に國家の意義をして正確ならしめんことを務めり

夫れ人類の此の土に棲息して共同目的の爲に衆意の一致結合したるときは吾人之を名けて社會と云ふ社會の興るや或は初めより衆人の合意に由てい之を組織するものあ

り或は知らす識らす各人の意思同一目的に向ひて綜合し遂に之を組織するものあり其品類に至りても亦千狀萬態或は感情的のものあり(宗教類)或は職業的のものあり(農工商の類)親屬的あり主從的あり其の他枚擧に遑あらすと雖も常に文明開化の進歩に伴ひて新陳代謝し其の數人世の共同目的と正比例をなすものなり斯の如く共同生活をなせる人類の間には幾多の共同目的ありて幾多の社會を組織し其の幾多の社會は互に團結して一體となり遂に一大社會を組織す是れ即ち國家なり故に國家は人類間萬般の社會を包含したる最も廣濶なる一大社會にして社會諸般の衆力漸々和力して各自權衡を得遂に統一に歸したるとき始めて生出するものなり然れとも社會諸般の衆力各自

權衡を得永く其均勢を保たんと欲せは多數の人類地球上一定の範圍内に土着することと及至高力即ち主權なるものありて常に其の均勢を守護することを要す故に吾輩は將に曰はんとす「國家とは一定の國土に於て至高力の守護したる人類社會の最も廣濶なるものなり」と此の定義に依れは國家は社會の秩序國土及至高力の三要素より成るものにして其の要素中或は廢滅し或は變形するときは國家も亦自ら滅亡するものなり然れとも其の要素の廢滅變形に因ケ國家の滅亡するや人の軀幹一定の時期を以て必す枯死するか如くならす恰も疾病の人身を斃すか如く寧ろ偶然の事實と云はさる可らす然れは則ち國家の命數は本來永遠無究のものにして假令數千百年を經過すると雖

も決して老少の差別あるものに非す蓋し人身的國家論(若くは有機的國家論)の如きは從來の國家論者か唯其の說の巧妙ならんことを競ひたるより起りし謬見にして到底國家の本性を說明するに足らさるなり

今假りに人身的國家論者の說に從ひ國家も亦人の如く其の齡あるものとすれは其幼者と老者との標準は果して如何若し建國年數を以て之を定めんか我東洋諸國は歐米諸國に比して既に老年に達したるものと云ふへし然れとも既に老年に達したる邦國なるか故に少壯の西洋諸國に行はるゝ立憲政躰を行ふは憂ふへしと云ふ可らす何となれは西洋諸國も幾十百年の後老年に達すれは立憲政躰を廢せさるへからされはなり將た政躰を以て標準と爲し立憲

政躰の行はるゝ國を以て壯年に達したるものとなさんか立憲政躰國は必す專制政躰の時期を經過したるものならさる可らす何となれは幼稚の時期を經過せさる壯年なけれはなり然るに北米合衆國が嘗て專制政躰國たりしことは吾輩の未た聞知せさる所なり

以上論する所を以て人身的國家論の謬見たること既に明白なるへし氏請ふ之を三思せよ

吾輩は更に一歩を進めて立憲政躰は啻に黃色人種に適せさるの理なきのみならす立憲政體は實に天下の大勢にして支那朝鮮の如きも亦早晩之を採用せさるへからさるの時期あることを論せんとす

亞細亞人種に二類あり一を馬來人種と云ひ一を蒙古人種

と云ふ蒙古人種中其の中央亞細亞に棲息する一部の民族は專ら牧畜を事とし獸集鳥散水草を追ふて轉居し未た國家を成したるものなしと雖も其の東部民族に至りては古來既に强大なる國家を建設し其の農工經濟の道、學校敎育の制、訴訟斷獄の法一として發達せさるなく殊に道德學の如きは巧妙深遠にして大に見るへきものあり亦以其の人種の國家思想に長したるを知るに足るへし然れとも其法律思想に至りては常に道德と混同して兩者の分界甚た判明ならす從ひて自由權の思想の如きは殆と其の形迹を存せす此れ蓋し道德の主義敎育の制度之が發達を抑止したると國土の形勢自ら他人種との交通を絕ちて國民の競爭心を振起せさりしとに因るものにして決して人種の天性

然るにあらさるなり

人誰か自由を愛せさらん自由は人の天性なりとはフリードリヒ、グンツが其自由論の冒頭に記載せる語なり自由は洵に人の天性なり是を以て其の向ふ所一として專制政體を破壞せさることなく遂に殆と白晳人種の天下を席卷し將に進みて黃色人種の國家を風靡せんとす其の勢の至大至猛なる奔雷疾風も啻のみならす此れ豈に人の天性に出つるものにあらすして何そや故に東洋諸國も唯我獨尊の妄想を去り西洋文明の長する所を採り以て我短處を補ひ而して道德敎育に於て其の主義制度を變するに至らは自由思想も亦漸々發達し遂に專制政體を變して立憲政體と爲さゝるへからさるなり是

を以て之を觀れは我日本帝國の今日立憲政體を實行せんとするは蓋し天下の大勢に投したるものにして毫も怪むに足らさるなり

然れとも終りに臨み我日本帝政國の前途に就きて一言すへきものあり吾輩は既に前に於て國家の生存に欠く可らさるもの三あることを詳述せり國家は此の三要素に異動なき以上は永遠無究なるへしと雖も立憲政體に伴ふ所の國民自由の權は之を譬ふるに恰も護身の利刀の如し一ひ之か使用を誤るときは却りて己れを斃すに至る亞典人は自由權を濫用して國家の第三要素たる至高力の統一を傷け遂に其の國家を顚覆し羅馬人も亦自由權を濫用して爲に其命脈を長うすること能はさりき昔は宗教に壓制あり

政治に壓制ありて以て民智の發達を害し今は宗教に自由あり政治に自由ありて以て國家の生存を危うせんとす豈に愼誡を加へさるへけんや

故に自由の思想一ひ吾人の腦裏に浸染するときは又之を奪ふへからす立憲政躰は實に文明の美果にして我日本帝國の之を行はんとするも亦宇内大勢の然らしむる所なりと雖も君民一體上下力を協せて亞典羅馬の如く自由權濫用の惡結果を見さらんことに注意せさるへからさるなり」

之を要するに吾輩は國家の意義より之を觀るも又人種の異同より之を觀るも立憲政體の東洋國民に適せさるの理由を發見することを能はす啻然るのみならす吾輩は將に斷言せんとす支那朝鮮の如きも亦其の文明の進歩するに從

ひ必す獨裁政治を廢して立憲代議政治を行はさるへからすと

外山正一樣

明治二十四年四月八日着

拜啓陳は度々被仰越候得共御依頼之件は先つ以て御斷申上候條左樣御承知可被下候也

末松三郎樣

明治二十四年四月八日着

優勝劣敗の理の爭ふ可らさるは同感に候得共黃白人種の間に優劣ありとの外人(本邦人にして此說を主張するは最可怪訝也)の說には大反對に御座候尤も此種の問題は三郎の專攻する所に無之候間御答に及ひ不申候餘暇有之節は一文を草し供尊覽に申候毎々之御書簡に默止し難し此段御答申上候草々拜頓

曾禰荒助樣

明治二十四年四月九日着

御熱心之人種と政治論との關係に付ては豫て御送付被成下置候書類本年一月之火災の爲め燒失候に付其趣先日申上置候通にて未た定見無御座候實に是は大難題にして一は爲國家一は人種の爲め虛空に申出兼候貴下御高見書拜讀仕批評仕候儀は敢て辭し不申候先は拜復迄草々不一

和田垣謙三樣

明治廿四年四月十五日着

拜呈陳は過般來度々御照會の人種政治關係論は小生には御答出來不申候間右樣御了承被下度候拜具

山川浩樣

明治廿四年四月十六日着

拜見人種と政治との關係云々淺學の小生確たる意見無之に付御斷申上候也

矢野文雄樣

明治二十四年四月十九日着

拜復度々御書翰之處小生事當時は全く口を政治論に絕ち居り候に付貴問に應し兼候間あしからず御承知被下度候

青木周藏樣

明治二十四年四月廿一日着

緣連曠野望茫々、掃蕩三春夢一場、別有行雲流水處、宛然天地大文章

賦郊外所觀似今井君聊代答詞

尾崎行雄樣

外務大臣青木子周藏書判

明治二十四年五月廿九日着

拜復過日御問合相成候黃白人種と政治との關係は御所見甚た奇抜なれとも到底一種無根の僻論たるを免れすと存候白色人種の國會と雖も其初めに方ては我昨年の議會より不都合不躰裁なるものなりしこと明かなる事實に御座候我立憲政躰ほと前途多忙なるものは無之とは小生の宿論に御座候先は右御答迄草々不盡

林小一郎樣

明治二十四年六月二日着

拜啓愈御清逸不斜奉賀候さて此頃は坂地に於て偶拜芝を得候得共發車前にて何の御物語も難相成遺憾此事に御坐候付ては同時御示し相成候御疑問の件は不學之小生素より御滿足なる御答案は出來不申加ふるに目下多忙にして充分の意見を認むることも難相成旁御斷之印迄に左に一二の妄點を記し御一笑に附し可申候

黃白人種の區別は政躰の如何に關係なきは言を俟たす然

れとも此の兩人種の上に表はるゝ所の政治上社會上の進歩に遲速緩急あるは人種によつて天賦の特性を色別したるが如き疑なき能はずと雖も其原因を討究すれは必す他故なくんは非す試みに其顯著なるもの一二を擧くれば東洋列國の過半は暖熱の帶下に在りて天然の産物に富み人々自ら生活の難きを知らす故に政治上社會上の事に至るも之れを他に依賴して其爲す所に放任して顧みるなく自然其の俗故に泥み新に移るを欲せす夫れ其の進歩を妨けたる所以ならん

西洋各國の人民は其風土自然の境遇に制せられ自力に賴らされは自活し能はさるを以て遂に生存競爭の事起り爲めに智識の發達を促かし其原動力は政治上社會上に及ほ

し人々自活の精神を推揮し各自の權利を貴重し遂に代議政躰の美果を收むるに至りし者ならん

右の原因によつて政治上の進度を異にしたりと雖も今や東西交通頻繁の時世となり智識の平均彼此を統一して遂ひに人種によつて政躰の如何に區別あるか如き外觀を脫却するの日あることは期して俟つへきことゝ信す

○○○○○

明治二十四年六月三日著

水は方圓の器に從ひ人は善惡の友によると實に吾人を欺かさるなり嗚呼又朱に染まれは赤くなり墨に染まれは黑くなるは比較的進歩の原則なりと知るへし然るに今井佐太郎氏は東洋の代議政躰人種上適否如何を疑ふて予に書を寄する數回予は其學理研究の熱心なるに感せすんはあ

らす聞く文明國には專門學の盛なる一種の學術に一身を寄せ殊に甚たしきは蟻虫一種の研究に世を終るものありと然るに今井氏は此の重大問題たる東洋の代議政躰適否に付き方今天下有名の諸大家に書を送り其疑ひを解かんとせらるゝは又一の憂國者たる擧動に背かさるなり予豈之れを輕々に看過せんや予は之れに付き聊か所見を筆して答ふる所あらんとす然れとも固淺學にして恐らくは今井氏の望みを全ふする能はさるへしと雖も數回の來書に報ゆるなくして止むへけんや

予は今井氏とは全く反對の特論を有す却て此の人種の黃白と異同する爲め幾何の將來に黃色東洋人は白色西洋人に文明開化の突出する時運の來るへきを想像せり何とな

れは人間の榮枯盛衰を見よ滿れは欠け盛なれは衰ふるは造化自然の平均力人智を以て推理すへからす古人云へらく天の滿つるを疾むや惡を疾むより甚たしと嗚呼造化のなせる榮枯盛衰の無常なる豈獨り人間にのみ止まらんや邦國も亦然り太古埃及の盛なる印度の盛んなる支那の盛んなる之れ皆過去一場の夢にして今や衰へたり其盛衰は又無常を離れさるにあらすや今日英國獨逸の隆盛なる古代必すしも盛んなりしにあらす然らは又將來地球の存在せん限り英獨のみ聳然文化を世界に横領し他の邦國は之れと競爭の間優劣する能はすとは明言すへからす豪傑の見必すしも豪傑たるにあらす ロウスチヤルド世界のあらん限り ロウスチヤルドの富を持つへきや否コールド地球

のあらん限りコールドの金を蓄ふへきや否代議政躰の專有特許は造化決して之れを許さゝるなし大凡事物は一定不變たる能はさるものなり

されは白色人種の代議政躰も亦西洋諸國の專有物と限る能はさるなり予の見聞する所に依れは東洋へ西洋の文化を輸入し其文化を東洋に摸擬し皆一として好良の結果を得さるなく然るに代議政治のみ獨り東洋人は西洋人に習ふへからすとは抑今井氏の謬見たるにはあらさるか今井氏よ試みに西洋文物諸事摸擬中にして何物か東洋の彼れに摸擬し得られさるものありしか若し之れありとすれは能く之れを擧示せよ予は何事も摸擬し得られさる事なかりしと見聞せり既に何事も彼れに習ふ能はさる事なしと

すれは論理上よりも事實上よりも代議政治のみ我れ彼れに習ふ能はすとは恐らく論理立たさるへく否敢て疑ふを要せさるへし蓋し天下の事物何事に限らす一定不變に止まる能はさるの理を曉らは又何ぞ黃白人種の如何を問はん試みに思へ若し人種の異同以て形而下の事行ふ可らすとすれは印度の佛敎は日本と人種を異にすれは行ふ可らさるなり然るに却て今日佛敎の狀躰は印度より日本に盛んなるにあらすや此の過去の一事實を以て將來の一事實を看察すれは人種黃白の異同は絕えて政治の如何に關係せさるや更に議論なかるへきなり今井氏以て如何となす

杉孫七郎樣

前略人種政治關係云々御諭之處可及御答候程之意見無之

明治二十四年六月七日着

且如此事は書中往復にて難罄候也

天野爲之樣

明治二十四年六月二十一日着

拜復兼て御申越の問題之儀御返事可申上之處、近來は世事多忙何分深考之遑無之候間御斷申候匆々

大山巖樣

明治二十四年六月二十三日着

愈々御清榮奉賀候偖て人種と政治との關係有無には數度御申越の趣了承乍然小生に於ては別段意見とては無之候間右樣御了知相成度折角の御尋に接し貴意をして御滿足せしむるを得ず恐縮の至不惡御了承被下度先は乍遲延御回答迄如此に御座候敬白

末廣重恭樣

明治二十四年六月二十四日着

去日來度々人種と政治との關係の御問合せに相成候處此節非常に多忙を極め候間何分詳細御答の暇無之不惡御垂恕相願度候只一の比喩を設け直ちに之を以て事實を斷せんとすれは論理上非常の誤謬に陷り候樣被存候畧答不宣

植木枝盛樣

明治二十四年七月十一日着

岐阜縣の人今井佐太郎君先年某の月余に一書を寄せ請ふて曰く不肖廼間黃色人種と立憲政體との關係に就き密かに疑欵の胸中に生するものあり蓋し東洋は開化夙に發して而して自から立憲政體を起したる者なし歐米は開化後に發して概ね立憲政體を創建するに怠らず是れ立憲政體は白色人種に適して黃色人種に適せざるには非ざる乎抑も亦人種の如何は絕て一國の政體に關係する所あらざる乎不肖胸中已に此疑欵あり而して忽々質す所なきに付す

是れ不肖の忍ぶ能はざる所なり先生希くは之か爲めに明解を與へられんことを余此時に當りて事故荐りに存し今井君の求めに應する能はず一書を送りて謝絶の意を述ぶ今年七月今井君自から東京に來り余が僑居に過りて復た前日の疑問を爲し强て一答を煩さんことを乞ふ熱心色に見はれ少しも倦む所なきが如し余以爲らく今井君の此疑問を發したるは敢て感ずべきことにあらず然れども今井君の此疑問を發して而して寸時も之を忽にすることなく一意專心其解說を得んとするに精勵刻苦する者是れ甚だ感ずべきことなりと或る書に之を記す在昔登蓮法師はわたのへと云ふ處にまさうの溝の事を知りたる者ありと聞きて雨降に簑笠着けわらぢはきて尋ね行きたり云々と今也今井君

己れの疑欵を開かんとするに汲々たる其れも亦登蓮法師の氣根を得たる者なる歟

余也淺學敢て今井君の爲めに明解を與ふべき力あると無し然れども君の求めたる亦甚だ切なり余遂に峻拒するに忍ひず叨りて二三言を述べて君に與へんとす

第一

余は第一に以爲らく若其問題にして黃色人種は絶對絶命立憲政體に適せざるものなりやと云ふとならんには是れ決して然るにあらさるべしと

夫れ立憲政體は他の專制政體等に比較して餘程に進化したる政體なり故に今若し之を以て現在に實施すべき經國爲政上の問題とすれば或は國風民俗の如何に由り適不適

の論なきに非ざるべし例へば今日に於て彼の南洋カロリン諸島に棲息する如き人民を把り來り直に施すに立憲政體を以てせんとす果して善く適すべき耶否らさる耶是れ余の俄かに明言する能はさる所なり然れども此の如きは政體と人種との關係に非ざるなり政體と開化の度合との關係なり人種は黃にもせよ白にもせよ開化は開化なり不開化は不開化なり黃と雖も白と雖も其邦國社會にして現に甚しく不開化ならんには立憲政體の未だ適せざる時なきにあらざるべし人種は黃にもせよ白にもせよ不開化は不開化なり開化は開化なり黃と雖も白と雖も其邦國社會にして已に開化ならんには寧ろ立憲政體の行はれざる所以あらんや

彼の黃色人種が既往と現在とに於て白色人種に數籌を輸するは蔽ふべからざるの事實なるべし又此の黃色人種が今後に如何ほど開發進歩すべきものなるやを正確明瞭に測度せんとは幾んど困難の事業なるべし余は人種學專門家にもあらざるとなれば此の黃色人種か他の白色人種等と其本を同ふするとなるや否らさるや之を斷言すると能はす又其黃色人種は後來白色人種と同一に進歩すべきものなるや否らさるや此等の邊にも深く研究を費したるとなし然れども唯だ其黃色人種が立憲政體を實行するに堪ゆる丈の發達進歩を爲すとは既往と現今との上に於て之を證徹するに足るべし

故に余は之を斷言す抽象的に人種の考察として之を論せ

んには黄色人種と雖も立憲政體に適せずと云ふとは無かるべしと

第二

白色人種の國は夙に立憲政體を起すに勇往直進したるにも拘はらず黄色人種の國は今日日本に於て憲法を立て國會を開きたる外幾んど立憲政體を行ふたる者なし是れ固より哀むべきとなり切に之を思ふときは蓋し黄色人種に於ける古來の歴史に對して弔詞を呈せざるを得ざるべし只此の一點を以て黄色人種を立憲政體に適せざるものと斷定せんとは早計たらすんばあらざるなり

蓋し黄色人種國が(殊に支那日本の如き)其開國甚だ久しく其開化夙に開發したるにも拘はらず未だ立憲政體を自發

する能はざりしは幾分か立憲政體と云ふか如きものに感遷移動すべき性情に乏しかりしを證徴せざるにあらず然れども所謂立憲政躰てふものは唯た其立憲政躰を行ふべき元力ありさへすれば天然自然に發釀すべしと限りたるにもあらず其知識其工夫一たび此に發機せざれば其元力は之れあるにも拘はらず久しく之を行はさるに過くると無きにしもあらざるべし余東洋の歴史を考ふるに彼は哀しきとにも命令主義の開化に偏勝したり其精神此一方に向つて旺盛したり夫れ一方に偏勝し一方に旺盛するときは他の一方には極めて感染し難きを常とするなり東洋は古より誤て命令主義の開化に偏勝旺盛したり故に乃ち自由主義の開化に遷移するとは甚だ易からざり故に知るべし

彼の東洋諸國をして右の如く命令主義の開化に偏勝するを致さしめたる一事は其人民に於て多少の罪なきにあらざるべきも左ればとて黄色人種に立憲政躰を行ふべき元力なしとの事を立證するには足らざるべきことを

第三

今日日本に於て立憲政躰を行ふことと爲りしは固より歐米諸國の知識を採取したるものならん歐米諸國の知識少しも傳はる無くんば我國も亦未だ立憲政躰を創擧するに至らざりしや知るべからざるなり然れども余は思ふ縱ひ歐米の知識を輸入し來るとなきも必しも立憲政躰の起らざりしにも非さるべしと彼の板垣退助氏が戊辰の歲會津戰爭の時に際して自から平民主義を或る事柄の上より感し

來り覺り得たるが如き蓋し歐米諸國の知識に誘發せられたるに非ざりしなり

又今日の日本に於て立憲政躰を起したるは知を歐米に學ひ例を歐米に取りたるものとせよ其由來は如何あるにもせよ其人民にして已に立憲政躰を好み之を行ふに勇み之を行ふに果し之を行ふに堪ゆるを以て察すれば黄色人種に立憲政躰が適せずとは謂ふべからず彼の歐米諸國なりとて今日立憲政躰を行ふ者必しも悉く之を自發したるものと限るべからす他の實物成績を視て之に感染したる者往々にして然りとするなり豈に單り日本のみならんや抑亦黄色人種のみならんや

第四

若又玆に問題あらん曰く立憲政躰を行ふには白色人種優れりとする歟黄色人種優れりとする歟と是れ立憲政躰を行ふに就きて彼と此との比較論なり即ち甲と乙との優劣論なり斯の如き優劣比較の論に至つては更らに又別箇の考察なきを得さるべし但し是等の問題を十分縝密に論定せんには須らく先つ溯つて彼此人種の根本をも究めざるべからす又其甲乙人種に就き彼に於ても此に於ても十分之を敎育養成すれは如何なる程度にまで開發進歩すべきや否らさるやを檢定若くは推測せざるべからず而して斯の如きは如何なる學者と雖も容易に企及すべきとにあらざるべし然れは唯だ其既往の歷史と現今の實況とに由りて之を論せん歟爾るに於ては立憲政躰を行ふと黄色人種が白色人種よりも優れりと云ふとはあらざるべし

第五

夫れ立憲政躰とは如何なる政躰なる歟人民自治の政躰なり自由主義の政躰なり輿論の政躰なり智德の政躰なり他の專制政躰等に比ぶれば進化したる政躰なり故に眞正完全に之を行ふには人民に自治の氣象あるを要す社會に自由主義の行はるゝを要す輿論を尊ふの風習あるを要す智德を重んずるの眞心あるを要す依頼心あるは不可なり懶惰なるは不可なり節操なきは不可なり廉恥心なきは不可なり

彼の黄色人種は到底自治の氣象を發すると能はさるか到底自由の主義を味ふと能はさるか到底輿論を尊ふ能はさ

るか到底智徳を重んずる能はさるか徹頭依頼心を脱する能はさるか奴隷根性を抜く能はさるか其懶惰を改むる能はさるか節操を重んずる能はさるか思ふに必しも然るにあらざるべし是れ此の答辨を爲す者當人に於て乃ち黄色人種なるが故に自ら強めて之を飾説するにあらす余は實に公平虚心に是の如く之を觀するなり余は故に複言す黄色人種を立憲政躰に適せざるものとするは頗る其當を得ざるなりと若其立憲政躰を行ふか爲めにして黄色人種と白色人種との兩個に多少の優劣ありや否やと云ふに至りては自から是れ別個の觀察あるべし個は是れ右問題の主點たるにあらざれば此に深論すると勿かるべきのみ

佐久間國三郎樣　明治二十四年七月十二日着

貴問に對し充分なる答議を爲すこと素より小生の淺學及ふ所に無之候得共再三の御來書に付小生意見の要旨を左に陳述致候

立憲政躰の人種に關すると申儀は有之間敷事と存候小生の見る所にては第二の天性たる習慣風俗を養成したる佛敎孔孟の道に深く起因したる事と信認仕候全躰世人か西洋の君主專制を以て直ちに本邦支那等の政躰と同一視すると雖も決して小生は同一視する事能はす佛敎孔孟の道より起因したる政躰は立憲政躰と相違するは勿論所謂西洋に云ふ君主專制とも亦相違したる一種の君主父母政躰にして其例證の如きは佛書儒籍に深く明かなる人には蓋

し異論なき事に候半西洋各國の如く君主專制より立憲政躰を生出するは自然の勢力にして單純の壓制的專制政躰か西洋に行はれたれはなり立憲政躰に移るは難き事にして自動的の變化を今日迄見さる所以なり否獨り移るの難きのみならす之れを最良政躰として西洋の文物輸入せさる以前は君主父母政躰に異論を主張したる一人の學者すらなきに非すや究竟東西數法の異同に起因し隨て社會百般の風俗習慣を爲し之れか第二の天性となり東西政躰の異同恰も人種に關するか如き外觀を顯はしたるならん故に小生は政體の異同は人種の固有性に非すして東西數法の異同に起因したる第二天性の習慣風俗か然らしめたる事と相考へ申候

今や我國立憲代議の政を行へり其完全なる結果の速成を望むが如きは宋人か苗を抜くの類たらさる哉風を移し俗を改むるには必す悠久なる歳月の經驗を要する事を果して然らは完全の實効は宜しく數十年の後に望んて可なり右小生意見の大畧を記し貴答に及ひ候也

德富猪一郎樣　　明治二十四年七月廿一日着

折角の御依頼なれとも御斷に及ひ申候頓首

井上哲次郎樣　　明治二十四年七月廿四日着

拜啓陳者度々御問合せに相成候問題に就き御答可申上候處近來益々多忙にて乍殘念御需に難應候併し生が去年厚生館にて演說致候中に該問題に關することを御座候間右之處丈抄錄致し供御參考候

自由權利の精神が西洋にも隨分古く起りましたその自由權利の精神の起つたのには色々原因もありますが一は「ギリシア」の文化ではります「ギリシア」の文化の進んだ時には最早其處に自由といふ精神がありましたそれだからして「スパルタ」でも「アデイン」でも其の國の躰裁……政躰と云ふものは全く共和政躰であります、尤も佛蘭西や亞米利加のやうな共和政體と同じものでは無いけれとも矢張り共和政躰と言ふべきものであつて、さうして頗る自由といふ精神が其の時にも發達して居りました、權利といふ事は未だ充分には發達しませぬでありましたけれども一躰にその一己人々々々といふものを貴ぶ精神、英吉利語で云へば「インデイビヂユアリテー」

(Individuality)の精神が最早その時に行はれて居りました、それからして耶蘇教も餘程平等の精神を惹起しましたが、それは姑く置き獨逸の國からして英吉利人だとか何だとか云ふものが擴がつたものでありますが、其「トイトニック」(Teutonik)の人種が始めて起つた時には獵をして住つて居りました……多くは獵……其獵をして居る時には於ては土地を分劃しないで濟む、土地を別けてさうして各々別けた土地で獵をしないで濟む各々勝手に林の中へ這入つて獵をする事でありますそれだから其時に最早自由の精神と云ふものが發達して居ります、それから後に引續いて起つた「ムニシパル、コーポレーション」(Municipal Corporation)といふ一の都府を拵へて、其處に人が集つて

相互に共和して支配する、相互に相談してさうしてそれを支配すると云ふ政治、それが後に此立憲政躰の抑も始でありますが然ふ云ふ精神が、後に英吉利の國やら彼地（アチ）此地（コチ）に擴がつて立憲政躰が起つて來たものであります、それに付て今一つ言つて置かなければならない事は、亞細亞の方では印度から東は皆農業の國であります、印度も古くから五穀を耕す事が重もなる業でありました、支那や日本も其通り、農業の盛んなる所は土地を別けなければならない、土地を分劃してそうしてそれを耕すといふと始て爭が起るといふと遂に强ひ者が弱い者を壓倒して澤山の田地を取つて大勢の人を自分の下に使ふ事になつて來る、それが即ち專制政府の起りであります、それ

で東方亞細亞にはどうも專制政治が行はれて居る、專制政治の行はれる所には、決して自由の精神が起りませぬ、服從といふ事は多くの人間が爲すべき道德であつて、獨立自立の精神は決して道德でないといふ考……マー要するに、獨立自立の精神といふものは、然ふ云ふ所には起り難いものであります、總て然ふ云ふ國では獨立自立の精神を知らなかつたものであります

人種政治上　終

人種政治 下

緒論

編者東洋黄色人種は西洋白色人種の代議政躰を習用するは果して此の東洋黄色人種に適否如何の疑問を惹起するや久し而して之れを判定する事能はす爰に於て編者は此の文化隆盛の明世に生れ徒らに之れを胸中に潜むるは主運の今日に當り學理研究上遺憾に堪へさるを以て敢て博學諸大家に郵書を飛はし之れか教へを乞へり然るに博學諸大家編者の淺學薄聞を憐みて懇篤の教諭を辱ふするあり或は鄭重の書翰を賜はるありたり編者の幸榮何物か之れに過きん編者謹て博學諸大家の好意厚情を爰に深く拝謝する處なり然るに編者の短識暗愚なる斯る懇篤の教諭

を辱ふするも尚未た不幸にして此の疑團を氷解する能はさるなり嗚呼編者は始め疑ひに起り半は信に入らんとし又再ひ疑ひに還れり之れを默して止まんか疑ひ更に始めに異なるなく遺憾消滅の期數十百年の實驗を待たさるへからす之れに依て編者は敢て淺學寡聞を顧みす前に記載する博學諸大家へ寄送したる書翰の意義を詳述せん即ち東洋黃色人種は西洋白色人種の代議政躰適否如何の疑問を審かにせんとすれとも學淺く文拙くして意の如く叙述する能はされは宜しく讀者は文を以て意を害する勿れ本文篇を別たす東西政躰の異なる主因從因ならんと考察する所を陳述せんとす是編者の必すしも奇を好み怪を求めて故さらに大言巨語を吐露し世間に虛名を釣らんとするにあらす實に一身の名譽如何は毫毛も顧みる處にあらす否編者か疑問の贅憂にして天下に嘲笑せられ本書の末期必す此書を世人か目に照映し後再ひ耳に入り手に觸るゝ如き世の不幸なからんは編者生涯の念願にして東洋黃色人種吾人萬代無究無限の巨幸最福なり而して又本書固より學理の詮議にして我日本帝國現前の政治如何に付て編者其可否得失を試むるにあらさるなりと知るへし嗚呼又編者は固より代議政躰の仇敵にあらす其大に熱望する所なれとも只眼前一時の熱望にあらす永世長久の希望なれは爰に疑の生せし者なり讀者幸に夫れ是れを諒察せよ

黃白人種の異同及ひ政治

大凡吾人か棲息する地球上無慮の千邦萬國に分るゝと雖とも其人種の大躰を區別すれは歐羅巴諸國亞米利加聯邦其他諸州の白色人種亞細亞各國の黄色人種亞弗利加諸州の黒色人種馬來群島の鳶色人種亞米利加固有の銅色人種にして是れ其大別なり又皮膚色以外の外貌骨格の異同する處の徽効大要を觀察すれは白色人種即ち高加索種なり此の人種は體骨正圓に近く顔面畧楕圓にして前額直立し鼻隆くして其起る處高く顴骨突出せす口唇大ならす身躰長大にして頭髪多くは褐色なり眼睛碧色を帶ふ黄色人種即ち莫古種なり此の人種は頭體稍方にして顔面平廣顴骨秀て鼻高からす頭髪多くは漆黒なり鬚髭少なく或は無き者あり身體多くは長大ならす黒色人種即ち以日阿伯啞種

なり此人種は體骨狭く左右より扁にして前額傾き聳へ顴高く鼻低廣鼻孔大なり口唇は甚た厚く且大にして前面に突出せるか如し頭髪皆縮捲す鳶色人種即ち馬來人種なり此の人種は體項稍狭く面廣く顴骨秀て身體長大ならす頭髪多くして黒く剛からす頗る蒙古種に似たりとす銅色人種即ち固有亞米利加人種なり此の人種は骨格稍蒙古種に近く顴骨秀て面廣し然れ共平ならす目陷り鼻廣くして高く頭髪疎にして黒く鬚髭少く或は無き者多し爰に編者か本篇の人種に天賦上自然なる黄白の異同は則ち政治上に於て代議政體と君主專制との二種に別るゝ所以に非さる哉の一向專念學理世界の研究に入らんとす元來此の黄色と白色と人種の相異なるは顯然明瞭目前の事實にして斯

る相違の生せし所以は固より一朝半夕の現象にあらす其基因は風土、氣候食物性居等の不同一より多數の星霜を經過し隨て人體の構造に差別を生したるものなり既に形而下に斯く異なるに於ては又形而上に異なるなきを得んと雖するも異なりあるは勿論なり今試みに之れを吾人々類以外の一動物を譬喩に擧けて之れを引證せん彼の吾人の庭前常に飼養する鷄を見て之れを一考せよ鷄には種々樣々其種類ありと雖ども先つ之れを軍鷄と地鷄との二種に於て比較せんに軍鷄は白色人種の如く地鷄は黃色人種の如し其躰格容貌の大小剛柔同しからさる殆んと斯の如くなるに於ては形而上如何と云へは又大ら形而下斯く異なるに於ては形而上如何と云へは又大に雙鷄兩鳥の間其趣きを異にせり即ち其各鷄の爭鬪を一

見せよ軍鷄は一たひ終局の爭鬪を以て勝敗し優劣を決着するや一方の敗鷄は甚しき時は死に終り或は事爰に至らさるも非常に疲勞し以後必す爭鬪する能はす且如何なる小雄鷄を見るも直ちに逃け隱れするものなり加之ならす遺傳此の弱性を雌鷄にも傳るなり一方の勝鷄は事之れに反對し爭鬪後更に疲勞するなく益其勇氣を增加し以後如何なる大雄鷄を見るも必す之れと爭鬪せんとす且つ又遺傳其勇を雌鷄に遺するものなり是れ軍鷄の自然天賦の特有性なりと云ふへし偖又地鷄は軍鷄の如く爭鬪し一時の優劣勝敗を決するとも雌も軍鷄の如く眞成の優劣を競ふなく故に勝鷄も敗鷄も共に疲勞し僅かに敗鷄の恐るゝは獨り勝鷄に過きす以後に於て敗鷄と雖とも他の雄鷄を見

れは又爭闘せんとす而して其勝敗兩鷄の結果之れを遺傳する事なし是れ地鷄の自然天稟の特有性なり以上軍鷄地鷄の形而下區別ある論なく又其形而上の異同爭闘に顯はるゝ事斯の如し獨り此の事實は鷄鳥に止まらず其他動物中同一物に在りて苟も其種類を異にし形而下の觀同しからされは勢形而上の顯象も亦異なるは條理の當然なり爰に黄白人種に在て一の奇妙なる事實は兩人種共に言語腕力の爭論ありと雖とも彼の決闘の一現象は往々白色人種には起るへき事なれとも黄色人種に之れを見す是れ蓋し一の習慣ならんとは雖とも亦一の白色人種の氣風を窺ふに足るなり殊に兩人種共に諸事の勝負事は嗜好せりと雖とも白色人種の勝負事を嗜好するや一層深くして黄色人種と同日の談にあらさるなり

論者或は云はん人心の同しからさる人面の異なるか如し故に千人千種の人心を異にするに止まらんや人毎に同しからさるなり

されは代議政躰は其人心の異同中に於ての大同數に從ひて立法の方針を規定するものなれは則ち代議政躰を行ふに白色人種は白色人種の代議政躰を生し黄色人種は黄色人種の代議政躰を見るへし何そ人種の異同に於て代議政躰の適否を憂ふるを要せんや

論者の説一理あるに似たりと雖とも編者之れに服從する能はす成程人心の同しからさる其面の異なる如きは當然なり之れ却て論者の説を破ふるの好材料にして編者の説

を確むるに足れり人面異なりて人心の異なる事明かなれは又人種異なれは其基性上同しからさるものあるや思ひ半はに過きん尚之れを前例の軍鶏地鶏に付て云へは軍鶏千羽地鶏千羽其心同しきやと云へは何人も二千羽各異なりと云はん然れとも其特性上の異同は軍鶏千羽は軍鶏千羽地鶏千羽は地鶏千羽となるへし更に論調一歩を進めて云へは大凡此の世界に發育する諸生物山嶽河海を擧け之れを總括し無機躰は動物植物の二者に外ならす之れを區別する時は大別中別小別となりて又中別中三別となり小別中三別となり其各別中又各別となり無數の區別に分れ歸する處一物一別となるへし其は偖て措き先つ動物の大別に付て之れを觀察せんに一概に動物と云へは動生物の下に縛らるゝと雖も之れを大別すれは蟲となり魚となり鳥となり獸となり人となるへく而して蟲の草木を偏匐する魚の河海を游泳する鳥の青空を飛遊する獸の山野を奔走する皆其れ其體格構造上に於ける大別上一種の特性なり又蟲魚鳥獸を區別すれは數百千萬に分るへし然れとも尤も注意を要すへきことなれは前例に依り云はん鳥類中分ちて鷄と云ひ又鷄を分ちて軍鷄地鷄と同生物中種類を分ちたる時は其動物中極點區別にして其極點區別にしてなりたるに付け其動生物には其動生物に關る一種の特性は必す存すへきなり故に人種の黄白に於けるも亦然り人種同一なれは人心異中同に歸着し人種差異あれは人心異中異を生出する明かなり例

ふれは恰も代議政躰は洋燈の如く專制政躰は行燈の如し皆共に夜中光を取るに於ては異ならす唯其暗明に於て異なれり暗明と異なるは決して洋燈行燈の兩物器械其物の爲にあらす燃質物の石炭油と菜種油との異なるに依るなり今洋燈の明を見て俄かに之れを倣はんとし其燃質物の原料則ち石炭油と菜種油とを論せす菜種油を洋燈に注き明を取らんとするや却て元の行燈に如かす然れとも石炭油を行燈皿に入れ明を取らんとするや是又危險なり白色人種は石炭油の如くして洋燈の挿みに螺旋は憲法及ひ內閣の如し之を以て治者被治者の限界を區畫せりと云ふへし黃色人種は菜種油の如くして行燈に挿みなく螺旋なく唯皿邊は火と油との分界にて其明を取り治者被治者と區分せりと云ふへし雨器明を取る豈に一器に限ると云ふへきにあらさるなり

偖又各人種の異同色形に付て聊か觀察を下さんに黃色人種白色人種鳶色人種銅色人種黑色人種と分れ其各色皆盡く同しからさるは明かなれとも稍其類の尤も近きは黃色人種と白色人種となり又其類の至て遠きは白色人種と黑色人種なり而して黃白色は獨り人種に限らす黃白色の物品に付て之れを徵するに今夜中黃色物品と白色物品とを心なく單見すれは其黃白は分ち難からん然れとも白晝之れを見るときは黃白の異同瞭然明白なり結果此の黃白二色は似て非なるものなりと云ふへし世界の文明は黃白二人種に橫領し又人口の多數も黃白二人種に增殖す偖て此

の黄白二人種の文化の進否及ひ人口の多寡を比較せんに文化は白色人種黄色人種より進み人口は黄色人種白色人種より多し而して黄白二人種一は文明を以て黄白二人種一は人口を以て海外に利益を爭ふ尚之れを復言すれは白色人種(歐米)は海外の貿易たるや上等的則ち資本上の利益に係る戰爭なり黄色人種(殊に支那)は海外の利益を見るや下等的則ち勞力上の賃銀に係る戰爭なり之れを又別言すれは白色人は海外政畧上の爭ひとなり黄色人(支那)は海外人種上の爭ひとなれり然り而して世界各國人口は増加して止まず其供給たる衣食は同一の比例に増加する能はす其割合たるや人口は復増し衣食は單増す蓋し白色人種も長く海外上等的の爭ひに止まるを得さるへく必す

下等的の爭ひを海外に競ふの時運遠きにあらさるへし是れ則ち人種上の爭ひなり人種の爭ひ本論研究の要點にあらされと事の序てに爰に及ひたるなり

緒又人種の黄色と白色と異なるに於ては兩者各特有の性質なかるへからす其特有の性質を供へて同しからさるもの頗る多し而して爰に一言を要すへき事あり元來習慣と特性とは殆んと兩者に於て區分し難きものなり故に古人も既に習慣は第二の天性と云ひしにあらすや固と特性あれはこそ習慣も起りしなり特性なけれは習慣の起らさる事多からん強ひて分つときは特性は本にして習慣は末ならんされは之れより特性及ひ習慣に關する事を擧けん

一躰白色人種は性固と理想的に富み黄色人種は性固と想

像的に富む例へは文字の如きも白色人の使用する横文は一件一個に一文字あるにあらす數文字編成して始めて一件一個と成る黄色人(殊に漢字)の使用する縦文は一件一個に皆各別に一文字ありて原と形象上に成れり一の横文は文字數少なく一の漢文は文字數多く是等は最初幼者習讀の時難易は勿論一は尤も記憶を要し一は尤も判斷を要すると而して文字使用者となれば多少精神に自然理と想との區別を與へん又其讀方も一は横と一は縦とにして本の左に繰り右に繰る異同は自然特性上の徴表とも知られたり或は繪書に於けるも白色人は理想的にして寫生實物となり黄色人は想像的にして寫神雅幽となる或は西洋人は器械使用に巧妙にして指頭使用に拙劣なり東洋人は器械使用に拙劣にして指頭使用に巧妙なり西洋人は合同一躰の氣風にして事業多く共同上に成る東洋人は單人孤立の氣風にして事業多く孤立上に成る西洋人は肉食東洋人は穀食にして各別なり食物の肉穀は氣風の如何に關係を及ほす少なからす又西洋人は立住東洋人は座住此の立住座住は身躰の構造に關係を與ふる少なからす大小便も西洋人は別通東洋人は合通なり又或る骨相學者の説に依れは東洋人の頭は三角なり前腦尖りて兩側張るこれ度量狹隘にして感情の深刻なる相にして割據的の頭なり西洋人の頭は恰も正反對なり前腦左右に張りて後腦尖かるこれ度量寛宏にして感情の恬淡たる相にして代議的の頭なりと編者は未た骨相學の門に入らされは固より自説にあらすと雖

とも稍一理あるの說なりと云ふへけん

然り而して東西各國の一般人心と處世とに尤も大關係を感染せしものあり是れ則ち宗教の東西異同にして其兩者人心と處世との形狀を異にする少なからずと知るへし今爰に其東西宗教の異同を詳述すれは爲めに多數の紙葉を費し本論前後の釣合を失する恐れあれは其大要を云はん

に歐羅巴の耶蘇教亞細亞の佛教に於ける兩教の異同にして歐羅巴の耶蘇教は事多く來世を說き現世に亘る少なく亞細亞の佛教は事來世を說くは勿論殊に現世にも亘りて多く說く事あり加之前世の事にも亘り現世の事は前世の因果の如く解說せり是を以て東西宗教上の異同精粗及ひ處世上に干涉するの多少は人事の行爲に區別を生する頗

る大なる關係を見る殊に宗教の勢力は社會人心を感動せしむるは抜山倒海も啻ならす實に信行力の强大なるは恐るへきものなり況んや古來は東西何れも政治と宗教とは混合にして精神と行爲と兩者を政治と宗教とにより檢束し國家を治めたる事實は明確にして云はゝ咽喉を押へて脊を打つの治世術にして宗教に依て國を治め政治に依て宗教を廣めたり然るに東洋には加へて儒教なるものあり個は前世及ひ未來を說かす唯現世の人心及ひ行爲を束縛する一法なり宗教に似て非なるものなりと云へとも東洋に於ける其勢力は强盛にして尤も上流者にありては殆んと佛教と伯仲して其人心の支配をなせり是れ又佛教と一般儒教も政治上に大なる關係を保有し儒教亦治世術の一

に供用せらる然るに近世西洋及ひ東洋も共に宗教と政治との混合治國策は學理の發達進歩に誘はれ宗教は人心の内部を支配するものとなり又政治は人爲の外部を支配するものとなり兩者各一別事とし宗教と政治は互に分離し各獨立せり然れとも積年の習慣混合時代の臭味は政教兩者分離獨立の今日にありても尚全く昔日の餘習政治上多少之れを存せるものありされは人種は偖て措き耶蘇教信行國以外には絶へて代議政躰は行はれたる事なし否行はるゝは難からん故に今日は政教分離時代なれとも其根原政教混合時代の關係は無形上なる精神に深く感染しつゝあるや論なく況んや今日政教分離時代も尚未た宗教上の餘風殘慣を多少政治に遺すをや是れ實に人種以外一種の

習慣勢力か政治に直接に間接に大關係を及ほしたるものなりと云ふへし

偖是れよりは東西男女の關係に於ける區別を觀察せん西洋は男女の關係同權にして男女相互に扶助し一家をなすの風習なり東洋は男女の關係尊卑にして男の女は從僕に似て一家をなすの通俗なり是れ恰も西洋男女の風習は君民同治の如く東洋男女の通俗は君主專制の如し今其東西何れの風習か眞理否動生物の本性に適合するや如何は之れを爰に論究するの要なく唯君主專制と君民同治と社會上男女の同權と異權とは多少政治上にも之れか影響を與ふるものあるへしと推考すれは之れを論したるなり必竟是れ等の東西風習の異同は宗教の如何に原因せし事なる

は明確の事實なり(余曾て東洋の男尊女卑の原因に付ては曾て經濟雜誌第三百四十六號の紙上を借りて論究せし事あり)兩者其一は孰れか動生物の本性に違反せしものにして編者の推理する處に依れば蓋し東洋の佛敎は現世の事に干渉する多く爲めに其敎義尊信力より男尊女卑の異風を生し儒敎亦現世の敎義を規定し其敬拜者同しく男尊女卑の異風を起し佛敎及ひ儒敎は其敎義に於ては同しからさるも男尊女卑の一事に至ては符節を合する如くなり然るに其佛敎儒敎の東洋に盛大なる積年傳來の餘習殘慣男尊女卑は人類の本性の如くはなれり是れ宗敎上より起りしものにて東西交通の盛なるとは云へ此の男尊女卑の風習は事形而上に屬すれは形而下の事の如く容易に其風習

は攪破すへからす政治も亦宗敎上より人種外に制肘せらるゝものありて佛敎儒敎の東洋人心を支配する間は假りに政治は人種に關せすとするも君民同治なる代議政體の運用は難かるへきなり

且つ又東洋と西洋の婚姻法も其趣きを頗る異にせり東洋の婚姻法たるや父母親族の干渉を以て成立し婚姻する當人は却て其撰擇の自由を得す父母親族の左右する處により殊に甚しきに至ては幼稚の際より云名付てふ事ありて父母と父母との間に於て心儘に其互の子女をして將來の夫婦たらしむる契約をなし或は婚姻夫婦の當人互に其顏面をも一見するなく唯父母と父母との契約にて婚姻を結ふあり實に長者即ち父母の干渉權力は大なり西洋は之

れに反し婚姻は其夫婦となるへき當人の撰擇自由にして互に充分其氣風性質をも能く相識りて後ち婚姻は成立すの當人より承諾を乞ふを許すのみ故に長者即ち父母の干渉は勘きなり此の婚姻法の相違も多少政治の如何に關係を及さん東洋と西洋の親子處世の異同を云はんに東洋は丁年以上に及ふも親子同居して年百年中親は無限權力を握り子は無限義務の下に服從す西洋は之れに反し丁年以上に及ひ苟も獨立し得へきに至らは親子別居して各自業務を取り親子各獨立す此家制も亦多少政治の如何に影響を及さん

又更に東西一家相續法の異同に付て觀察せんに東洋は長

子相續法にして親の財産は悉皆長子之れを繼承し二男三男の如きは同胞に生るゝも唯長幼の爲めに財産の分配を受くるや長子に比しては實に九牛の一毛なり又親の生存中と雖とも親には隱居てふ事ありて生存中家督を長子に授與して親は職業を拋棄し優々世外に立つの法あり殊に東洋は祖先の家を敬重するの風習あり西洋は大に之れと異なり決して長男尊からす二男三男與からす其親の財産相續たるや必す親の死後にして親の生存中家督相續なる事なし而して假令親の死後に於て其遺産を繼承すると雖とも必す親の遺言を守り長男獨り巨額の遺産を横領し二男三男之れに加はらさる如き事なく相當の分配に加はるへきなり是れ相續法の東西異同にして此の東西社會の組

織や西洋は長幼平等的なり東洋は長幼階級的なり彼の修身整家治國平天下の順序あるか如く一家の形躰は一國にも應用すへく一家親子長幼階級數段に分るれは其國の政治も亦勢然らさるを得す親子長幼均一の二段に分るれは其國の政治も亦然らさるを得さるなり全躰東洋は社會の組織に種々人類の段階多く西洋は社會組織に種々人類の段階少なし是れ又君主專制と代議政躰とに原因するや論なかるへし

人種の黄白異同に於ける豈獨り政治上代議及ひ專制の區別あるに徴するのみならさるは以上に叙述する如く尚又爰に一の論すへきものあり則ち近古歐羅巴諸國の財産家と勞力者との關係是れなり勞力者は財産家の使役の苛酷

に或ひは賃銀を增加せしめん爲め財産家に對しての所謂職業上の一揆とも云ふへき罷工同盟なる事ありて財産家の職業上に係る勞力事業の供給を欠き財産家の事業をして空く停業せしめ財産家を困めて勞役時間を減少せしめ或は賃銀を增加せしめ再ひ漸く其勞役に從事する情況、は是れ恰かも財産家の政府と勞役者の人民に於ける一種職業政府の改革にして勞役者か賃銀を增加せしめ或は勞力時間を短縮せしむる約束の財産家勞力者の間に整ひ改めて其賃銀增加或は勞役時間を短縮し始めて勞役に從事する如きは即ち其約束は實に職業上に於ける財産家勞役者間の一種の憲法と云ふも敢て不可なからん然るに事、未た其甚たしきに至らさるは歐羅巴諸國の幸福なり然れとも

社會は常に進歩して止まず進歩と共に富者は益富み貧者は愈貧しく優勝劣敗の理數は免れ得ず今日尚歐羅巴の貧富不平均不權衡は多數貧人合同的の壓制なる罷工同盟以て富者を苦しむるなり然るに今後貧富の不平等は時日を經ると共に隔絶せん其貧富の懸隔甚しきに至ると共に又罷工同盟の所業も隨て甚しきに至るは勢免れさるなり蓋し今後數百年の後に至らは歐羅巴は財産家と勞力者との間に一大革命の慘狀を現出する不幸は免れさるへし兎にも角にも現今歐洲の狀躰は政府と人民との施政上の關係多くして未た財産家と勞力者との關係甚しきに至らす然れとも將來必す其關係政府と人民に於けるよりは財産家と勞力者とに大ならん全躰此多數的壓制は白色人種の

特有性なりと云ふへし

以上大要に付き東西社會組織上に於ける異同は之れを記述せりと信す固より詳細なる區別を揭くれは殆んと際限なかるへきなり兎に角社會の組成上に於て東西の相違するは三尺の童子六歳の稚兒も多辨を要せす之れを知得へし況んや明瞭なる人種の黃白と區別あれは勢政治上に於て同しからさる又其自然社會組織の同しからさるは理數の然らしむる所なりと知るへし此の社會組織の異同人種黃白の異同は容易ならさる現象にして兩者其一何れか政治に關係せすと假定するも未た其一の關係を絕つへからす況んや兩者共に政治に關係するをや何人も靜思熟考すれは必す疑ひの胸中に起るへきは論なきなり加之なら

す現當東洋に開ゆたる代議政躰は又西洋と格別に趣向を異にせり何そや西洋は人民より政府に迫りて開けたる代議政躰にして云はゝ血河骨山の應報と云ふへし東洋は之れに反して政府より人民に迫りて開けたる代議政躰にして更に血河骨山の慘狀は夢裡にも曾て見聞せす政府と人民と和氣歡樂の間に相設けられたり

編者固より血河骨山の代議政躰を買ふへきを望むとは云はす又望むへき事にあらされ共大凡そ物には必す一利あれは一害の之れに伴ふへきは免れさる理數にして辛苦を嘗めす快樂獨り來るものにあらす血河骨山の慘狀を見す政府より誘導的の代議政躰にして運轉妙用の完全なるを得は又編者は敢て他を云はされ共蓋し將來馬に乘り餅を

喰ふ如き仕合は得らるへけれは格別なれと編者の淺見短慮にては望んて望むへからさるなり

東洋と西洋との文明開化發達の時代及ひ開國前後如何は又代議政躰の發達に付き深く論究を要すへき事なり然れとも今爰に明かに其年代今を去る何年何月なりと東西を對照し其差異を擧示する事は蓋し何人と雖も之れを斷言する事能はさるへし然れとも古今學者の所說に依れは東洋殊に支那の如きは其開化尤も古く決して西洋諸國の絶て及ふ處にあらす然るに其開化尤も古き支那には古代より代議政躰を見す又代議政躰の起るへき端緒とも云ふへき事實の絶へて歷史上に存する事なく然るに之れに反し其開化の新しき西洋諸國の却て代議政躰を發生したるは

之れ全く其八種の異同より然らしむるに源因するなるへし況んや東洋其開化の尤も古き支那すら代議政躰の起らさるに其他の邦國に代議政躰の起るをや

抑東洋の一部に輕々代議政躰の開設せられたる所以を推考するに東洋一部國人の今日の思想にては政治の改革は容易なるなりとの觀念を近來に養成したるに因れり

編者試みに其所以を叙述せん王政復古維新の一變則ち是れなり全躰東洋の幕府政治たるや七百年來其根據を堅固にして天皇陛下には恐れ多くも政治には空しく虚權を占めさせ賜ひて其實權は幕府に之れを掌握せり其七百年來の長日月執政上に於ては多少權力に消長ありとは雖も其政權を掌握したるは事實上明かなり爰に亦幕府に於ても

七百年間執政者には興亡盛衰あれとも近古の德川政府は殆んと三百年間積極的に政權を掌握して其堅固なる金城鐵壁二百餘大名八千餘の旗本は德川政府の藩屏となり其權柄其勢力は富嶽と同しく寸毫も動かすへきものにあらさりしに世界の時運一轉嘉永年代米國の使節來航は霹靂一聲多年の醉夢を攪破し前代未聞の外交(昔よりヲランダとの物品交易の事あれと大に其趣きを異にす)を求め事意外にして其是非は國中囂々たり加之ならす爰に勤王家顯はれ出て外交を非とし王政維新の端緒を發す即ち鎖港攘夷を主張し幕府の政略に違反す幕府亦內は勤王家有志家を罰するに汲々たり外は外交の談判に兢々として內外より幕府に刺撃を與へ遂には幕府政權を返上するに至れり

是れ全く幕府の事爰に至りたるは僅少なる勤王家有志家の爲めに然りしには非らず其實外交の至難にして且つ幕府内部に其反對者を養ひたるに起因せり其實偶然の事にして決して兵馬の間に終局の勝敗を決したるものにあらす事斯の如く容易に幕府は政權の返上となれり是を以て勤王家有志家は事の偶然に出てたるを考慮せす唯政治の改革は容易なるものと即了せり

此の觀念は明治政治家の腦骨に燒印して政治の改革は容易なるものと大早計に思考せり斯の如きに至りしは又一得一失の恐れなき能はさるへし何となれは七百年來の幕府三百年來の德川政府をして政權を返上せしめたるは外國の刺撃あると否とに關はらす其勳功は著明なりとは云へ輕々易々の間に此の大業をして勤王家有志家に成らしめたれは勤王家有志家をして政治の改革は容易なるものなりとの念慮頭腦に浮沈せしむる事是れなり

盖し東洋今日の代議政躰は事多く此の幕府政權返上の容易にして政治改革も亦容易なりとの念慮を起さしめたるに因れりと云ふべし

全躰勤王家有志者及ひ外國交際の二刺撃は幕府をして政權を返上せしめたるは明かなる近因なるへしとは云へ勤王家有志者の本末輕重を判斷し王室を重んし本とし又幕府を輕んし末としたるは全く文學上の作用より來りたるものにして其判斷力は遠く三百年來に養成したるの結果なり則ち三百年中の泰平無事にして殆んと武を廢し文を

講し智力衆へ腕力衰へたる時運に際し不思議にも突然外國交際の事起りたるなり此の刺撃は多年泰平中養成したる文學の束縛は本末輕重王室幕府の關係如何を判斷せしめたり之れ其遠因なり事物獨り近因に始終するものにあらす必す遠因近因と兩者相待て始終するは理數の定則なりされは若し三百年の泰平無事なく專ら武事の一點に社會の上流者熱中し更に文事なく智識を重んせす武事腕力を尊ふに當り偶然外國交際の事起らは果して邦國は如何又王政復古は如何又幕府は如何實に斯る場合ならしめは殆んと邦國の運命は覺束なきなり。しならん然るに事偶然の偶乎にも三百年の泰平に外國交際に幕府の政權返上に王政復古に種々の事件は盡く好運に適中せり邦家の幸榮

何物か之れに如かん然れとも事皆近因に始終せしにあらす更に遠因ありて此の好運に逢遇したるなり

然るに近來政治家は兎角此の遠因と近因と相待て王政維新の革命か成就したるに絕へて觀念爰に及はす唯近因の一事則ち幕府政權返上は近因たる勤王家と外國交際の刺撃なる二事は王政維新をなしたるものと思考し皆幕府三百年の泰平無事と文學講究は相關せさる如く否な忘れたる如く思慮の爰に至らさるなり唯近來の政治家か腦中は王政維新の一事以て政治改革は輕々易々の觀念を起さしめたり此の改革の容易なりしは編者今に至て是か非か俄かに學理上判定する能はす何んとなれは之れか爲め代議政躰も亦た容易に行ひ得へきものと即了し更らに人種の

如何宗教の如何習慣の如何風俗の如何を顧みす唯代議政躰は完美なり無上政治なりとの觀を生せしめたれとも此の遠因は則ち王政復古の容易なりしに依るものと知るへし

却て又幕府の施政如何を畧說せんに治者及ひ被治者の間人爲的階級頗る多く所謂門地門閥の人爵を利用し國家を治めたり其の人爵階級に於るや種々雜多にして枚擧に遑あらす其の家々の格式に依り人權を異にし所謂人は武士花は櫻木にして恰かも農工商の三民は武士に比較すれは人にして人に非らさる如くなり然して又武士にも種々の階級あり仕ふる大名の强弱により又別に權利を異にし大名には其の家柄により祿の多少に關せす權利を異にし此の外に公廨なる爵位の高き雲上人あり又下つて農工商にも夫々上に習ふて各民其間に種々家筋により家格の區別あり必竟するに門地門閥は幕府の當時にありては非常の無限勢力を有し金銀智力は到底之れに匹敵することを能はさりしなり官尊民卑の弊習は甚もしく政治は盡く武士の專有物件の形をなし農工商は敢て其の門を伺ふことを能はさるなり

然るに王政維新四民平等均權至尊一統の治下に服し幕府昔日の弊習は雲散霧消過去の一夢に化し去り幕府當時の壓制も談笑場裏の茶話に歸し農工商も士に辱められるゝなく人才登用の時代となり政治部內に入るは其心儘となり士農工商各其望むか儘となり之れを例へは農工商は昔日

籠に飼はれたる禽にして今や其籠を離れ山に飛ひ林に遊ふの身とはなれり兎に角王政維新の改革は國家大多數の幸福にして四民の歡喜限りなきなり

されば王政維新の改革に付け國民押並へて政治の改革は幸福に限るものと一念頭腦に感染したるに似たり何となれは全國有爲の士は擧けて朝野となく一向專念政治の一事に傾念注意し俄かに歐米風の代議政躰を施行すれは國は富み兵は强くなるへしと一途一概に想像し輿論と政治とは富國强兵の根低の如く思考せり而して歐米と人種の異同社會の組織の差異は措て論せす唯歐米の諸器械等の皆輕便利益にして之れを摸擬し施行し得られたるか故に何事も渾て斯の如く思惟し代議政躰も亦然りとせり是れ

前に云ふ王政維新の改革の容易にして國民か無上の幸福權利を得たれは改革は何時も容易にして利益なるものと觀念せしより起りたる希望に外ならす

又世人の希望する念慮は國は富め兵は强かれ民泰かれにあり是れ東西古今皆同しき處にして固より其生國死土と定めたる吾人同胞苟も五官七情を有する限り否禽獸蟲魚と雖も皆其住所を愛せさるものあらんや編者も亦五官七情を有し東洋は其生國死土と之れを心に誓ひ子孫長久繁榮と一身上には朝夕之れを祈り公共上には邦家の文化富國强兵と晝夜之れを願ふて止まさるなり然るに世人擧けて東洋の代議政躰は一言半語の不可を云ふものなきに當り編者は獨り爰に疑ひを抱きて或は東洋に代議政躰は不

適當にあらさるやと云ふ所以のものは復た他あるにあらす愛國の熱情に外ならさるなり或は世人編者の本編を以て外人的の議論と輕卒に考ふるものもあらんかなれと決して生國死土を顧みす然るにあらす東西人民の優劣を比較して代議政躰を適せすと云ふにあらす唯人種の異同社會組織の差別に付け代議政躰の適否に關係せさる哉にあるなり

若し編者の考察する如く人種の異同社會組織の差別にして代議政躰に關係するものとなれは且つ又政府より誘導的の代議政躰にして歐羅巴諸國の代議政躰の完美を習はんとするや恰も瓜の蔓に茄子の結はんを祈るに似さる哉の疑ひなき能はさるなり

全躰國家の富國強兵文明開化は獨り政府の如何に依て之れを湧出するものにあらす必す金力智力に依て求めさるへからす而して金力智力は獨り政治上の作用のみより製造し得らるへきものにあらす固より多少間接關係は見るへきも全力智力の源泉は殖產に興業に貿易に之れを求めさるへからす語を換へて云へは金力智力を殖產興業に外國貿易に傾射し其殖產興業外國貿易よりして又金力智力を增加するは直接關係と知るへし然るに今や邦家の狀躰を觀察するに殆んと智力金力を擧けて政治的一部に傾射し更に殖產興業外國貿易等(政治と比較して)には改良を加へす發達を見す殊に智力の一點は擧けて全國政治的に供給するもの、如し嗚呼政治は果して富國強兵の主要素た

るか農工商は之れに關係せさるものかと云へは蓋し何人も之れを然りと一刀兩斷明言するものなかるへし必竟するに邦家の富國強兵は農工商の、盛否如何は主因にして政治の良否(強ち專制政躰必すしも良なるにあらす個は別論)如何は從因なりと編躰必すしも否なるにあらす又代議政者は云ふを憚らさるなり故に其輕重を衡かる時は邦家の富强は寧農工商にありと云はさるへからす個は是れ極端論にして兩者共に其宜しきを得さるへからさるや勿論なり然るに我東洋一部の國に於ては政治と農工商との兩者の關係如何と之れを比較すれは實に其權衡重心點は政治となり零點は農工商となれる事は敢て喋々を要せす社會の形勢人心運行の狀躰を一見すれは思ひ半はに過きん嗚

呼英國の盛なる豈に獨り政治の如何に止まらんや米國の榮ゆる豈に獨り政治の如何に止まらんや龍倫市中雨と疑ふものは製造器械場の花たる煙にあらすやニウヨルク海邊林と訝るものは萬邦滊船の集まりたる帆柱にあらすや是れ皆殖産興業及ひ海外貿易の盛大を徵表する記標なりと知るへしされは英吉利の繁榮なる獨逸の隆盛なる唯政治の一事より之れを産出したるものなりと思惟するものあれは所謂其門を過き其堂に入らさるものと云ふへし何そ必しも英國數千萬の人民盡くグラッドストンと同一の政治家ならは今日の富を見ん獨逸人民擧けてビスマルクと同樣の政治家ならは今日の强きを致さん若し政治の一事にして國家を富强ならしむるものとすれはグラッドス

トンの博覽會ビスマルクの陳列會たらは英獨は今日の數百萬倍の富强ならさるへからすされとも編者は直ちに然りと唱ふる能はさるなり否然らす今日にも其富强或は及はさるかと怪むなり抑英に於ける獨に於ける其繁榮其隆盛は金力智力の分配政治と農工商との權衡や輕重なく水平線の分配を得たるか故へなり然るに今や東洋に於ては唯政治の一點に金力智力を傾け分配の不平等なる恰も富士山に電線信を張りたる高低を見るに異ならさるなり唯世の學者論士か中央集權の弊を歎き地方分權を主張す論者之れを以て弊は弊と云はさるにあらされとも政治と農工商との金智的の不分配に比較すれは其弊や九牛の一毛と云ふも敢て不可なからん宜敷く學者憂國士は邦家百千

年の長計上爰に千思萬考をなすへきの時運迫まれりと云ふへし是れ固より本編の眼目にあらされ共世の形勢を觀察しつゝ思はす知らす筆の爰に走りたるなり

されは東洋黃色人種の代議政躰の適否如何の疑ひに議論を復せん世間或は初期の國會即ち立憲代議政躰の無事に開場し圓滿に閉場し終りを告けたれは東洋黃色人種の代議政躰は適當にして之れを疑ふ者は杞憂なりとの非難もあらん然れとも編者は未た之れを以て數年來の疑團は爰に速かに氷解せさるなり何となれは代議政躰は一回の開閉以て始終するものにあらす又其目的を遂けたるものにあらす年々歲々開閉し年々歲々完全に完全を加へ積極的の發達進歩をなさゝるへからす其十則に及ひ二十

期に續き百千期と實行し愈國に適し益民に適して國家に
は安寧幸福を積極的に享受するや否やにあり之れを例ふ
れは試みに一度洋食を嘗め偶其味の甘きを覺へたるを以
て直ちに洋食は美なり必す喰はさるへからす洋食は身躰
をして壯健ならしむ又衛生滋養に宜しと云ふは大早計に
して淺見皮想の觀たるを免かれさるなり是れ則ち洋食一
時の珍味に心を奪はれたるなり宜しく一日二日三日五年
と之れを常食になし得へきや否やにあり僅かに一時の洋
食に和食は最早甘からすと輕々に云ふへけんや是を以て
又僅かに二期三期の國會開閉以て俄に其適否の標準とは
なすへからさるなり設令東洋に代議政躰行はれて初期三
五期と開閉しれはとて此の三五年の僅少年代に俄かに

國富み兵強く春草の陽氣に榮ゆる如く一雨否一開に顯はれ來るとは容易く信すへからす必す農工商の之れに伴ひ發達進歩せさるへからさるなり

嗚呼邦國の富強は一朝一夕に求むへからす諺に羅馬の都は一日に建たるにあらすと是れ古人か事物の漸進を許せし詞なり富強豈に此の詞に洩れんやされは富強は代議政躰に存せり文化は國會に求むへし更に其他農工商等の如何は富強に關せすと云ふへけんや

全躰代議政躰は其國其民の自動的の發達に起らさるへからす西洋諸國皆然り是れ則ち代議政躰の起る順路なり正道なり然るに東洋の或る一部に起りたる代議政躰は狹しく然らす其國其民は他動的の誘導に起りたり其他動的た

るや他動的の他動的を重ねたるものなり則ち西洋諸國の代議政躰か完美なるを東洋政府か羨望し其又政府か國民を誘導して起りたる代議政躰なり故に此の代議政躰は順路を踏ます正道を通らすして變路權道より入りたる代議政躰なり語を換へて云へは人民より眞似したる代議政躰にあらす政府より眞似せしめたるの代議政躰なり編者の疑ひ又爰にあり自發上の代議政躰と他發上の代議政躰と其作用の同一を求むるは蓋し難かるへく況んや上來陳述するか如く種々の事實か纏綿し存するをや是れ編者か胸裏に百出の疑惑往來して五里霧中に彷徨する所以なり

以上編者の叙述せし疑圖を一括約言すれは東洋と西洋との間代議政躰に於ける異同は即ち

第一人種の黄白(特性)たる區別の主因

第二社會組織(習慣及ひ經驗)か相違の從因

第三代議政躰の開設自發他發の別因

右の三現象は必竟東西代議政躰の作用を同一ならしむる能はさるやを憂ふるにあり然りと雖とも編者固と淺學寡聞而して此の重大問題たる代議政躰の適否に疑ひを起したるものは唯邦家の文化富強を祈るにあり祈りて社會一般の衆説に反對する所以のものは又淺學寡聞の罪にして編者の恥辱なり唯編者は東洋將來代議政躰か完全の發達を爲して編者か本書の罪を責められ恥を笑はれんは徹頭徹尾の最大希望なり然れとも亦編者本書の讀者に一の乞ふへき事あり其は他にあらす僅かに本書一讀直ちに編者

を狂と呼ひ痴と嘲けられん事を否狂と呼ひ痴と嘲けられんは敢て毫末も顧慮する處にあらすと雖も寧編者の狂なり痴なるを云はんより代議政體の完全なる發達を計畫せよ奮發せよ嗚呼編者一身の宿志富貴暖飽は敢て望む處にあらす唯東洋一部代議政體の開設邦國か文化富強の華域に進入し萬國の間に聳然確立せんを希ふにあるのみ幸ひに讀者夫れ之れを諒せよ

尚爰に編者疑問の終りに望み一言すへき事あり假りに亞細亞獨立專制諸國を論外として北米合衆國と英吉利國獨逸國等（英と獨とは各國主權に小異あり）と試みに其政體を比較せよ共に同一の國會ありて代議政治なりと雖も北米合衆國は共和的の代議政體なり英獨兩國は君民同治的の

代議政躰なり同しく代議政躰とは云へ其根據は天地の差異ありと云ふへし然るに此の根原の差異に付ては未た米歐の間に於て學者社會に深く其是非得失を研究したるを聞かす一は君民同治的の代議政躰を以て無上政躰となせり一は共和的の代議政躰を以て無上政躰となせり然れとも其是非を研究すれは二者何れか其一は良となり其一は否とならさるへからす既に二者良否あらは米合衆國か其和政躰を廢し英吉利國の君民同治の良に倣はんか或は英吉利國か君民同治政躰を廢し米合衆國の共和政躰の良に倣はんかにあらされは單見其良否を云ふへからさるに似たり否々編者の管見を以てすれは之れ表面を見て裏面を見す其一を知て其二を知らさる良否比較論なり英吉利獨

逸北米合衆國の共に鼎足の形をなし文化富強に榮ゆる所以のものは各其國土國民習慣氣風人情等に適當の政躰なれはなり是れ元同一の白色人種間の代議政躰にして尚然り然るに其人種を異にする黄色人種か直ちに白色人種の代議政躰を專制政躰に換用して完全の發達を見んとするは適否疑ひなき能はす而して編者聊か爰に東洋一種專制的特別政治の愚見なきにしもあらされとも元來本書は疑問に起りたるものなれは疑問の解くるあらは必すしも愚見を贅述するを要せす殊に愚見は本書以外の問題にして爰に加ふへきにあらす否本書を出版すれは必す世間博學の大家編者の愚を憐み幾多の敎諭あるへく幾多の敎諭中必す編者の疑ひを解かん惑ひを破らん唯編者は其時に至て身の淺學寡聞を耻つるのみ其淺學寡聞を耻つるの早からんを望むにあるのみ豈に他あらんや豈に他あらんや

人種政治下　終

版權登録

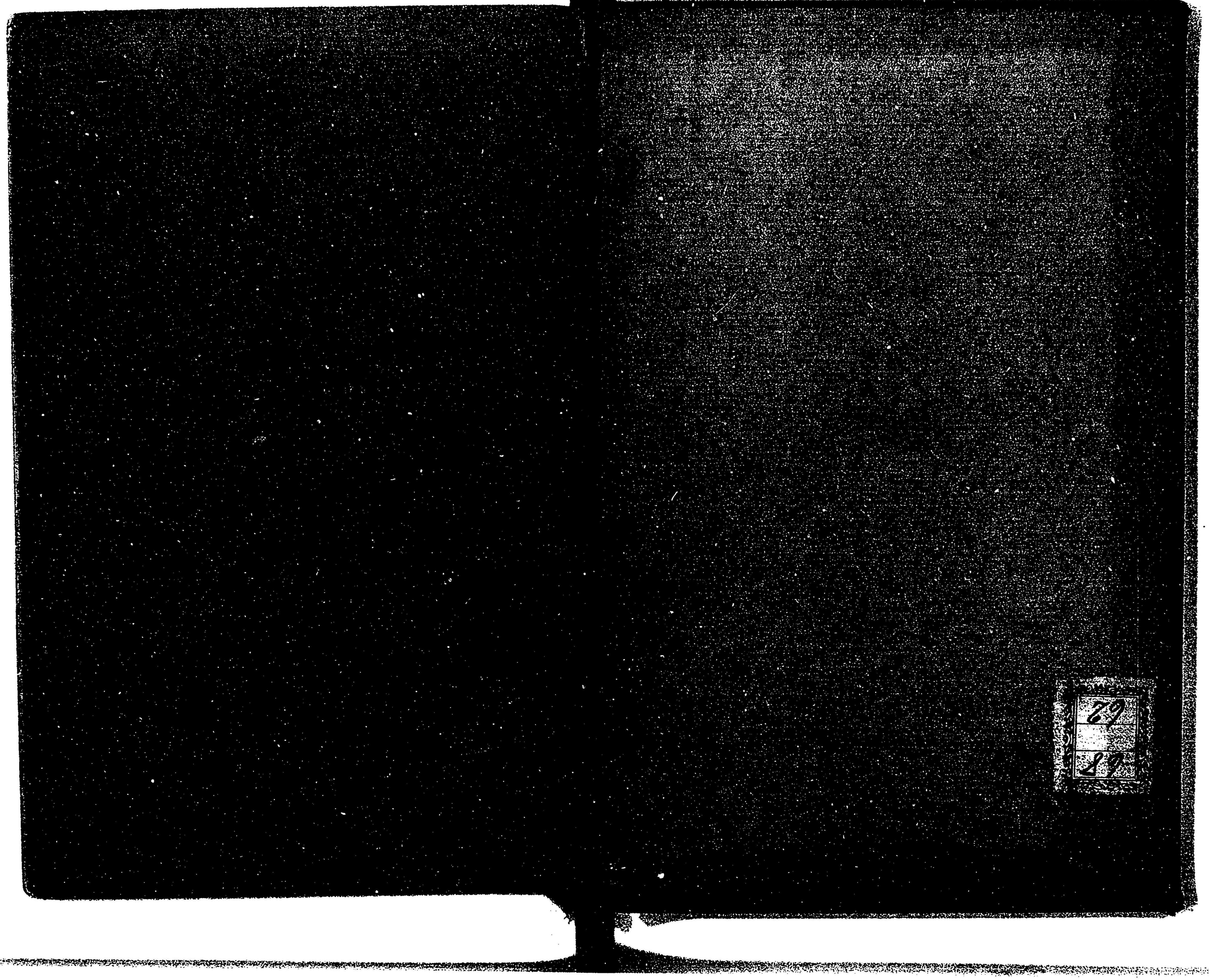
明治廿四年八月六日印刷
同　年同月七日出版

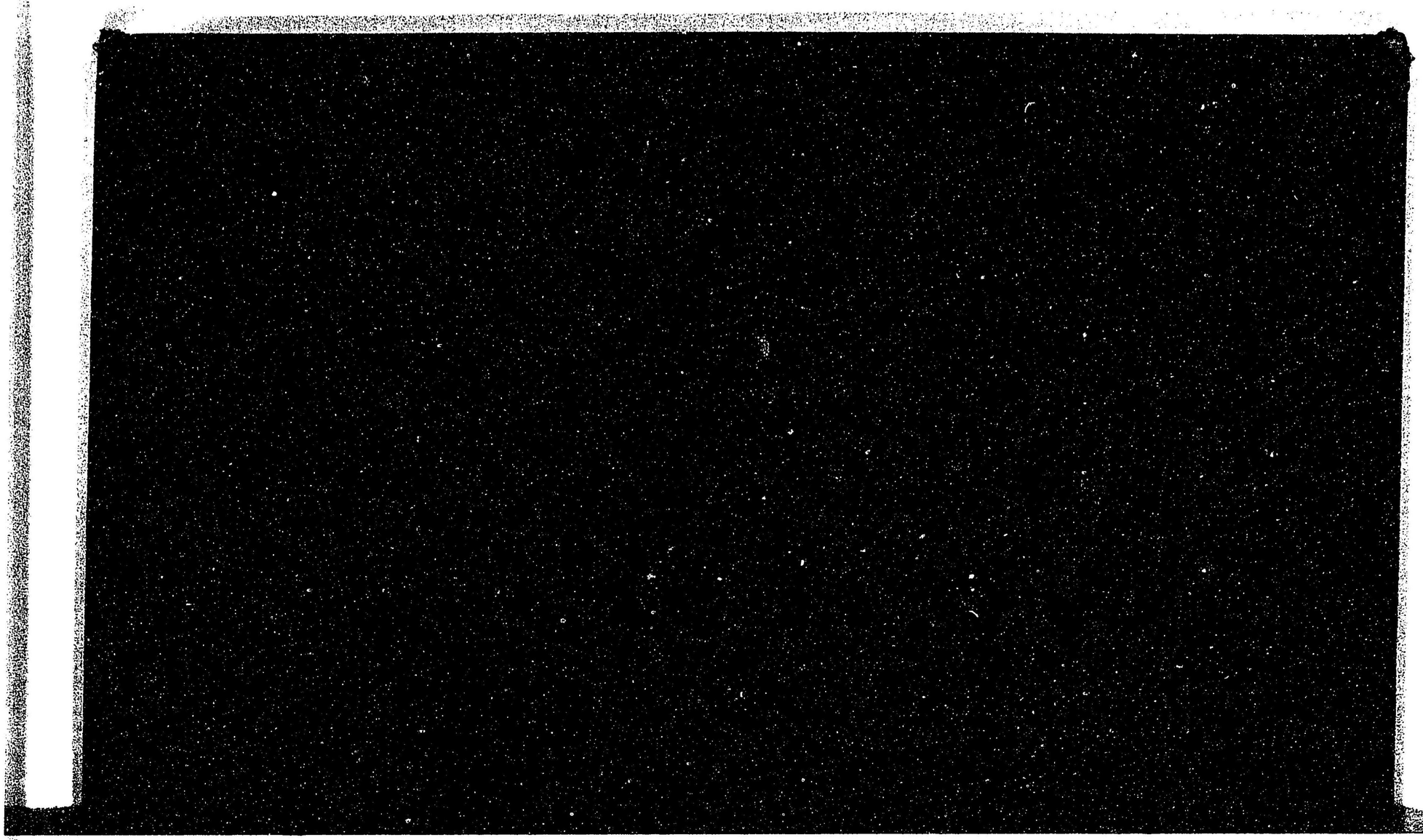
非賣品

著發兼作者　今井佐太郎　岐阜縣美濃國不破郡青墓村七番戸

印刷者　島連太郎　東京市京橋區西紺屋町廿六番地

印刷所　秀英舍　東京市京橋區西紺屋町廿六七番地


69
42



039629-000-9

68-62

人種政治

今井　佐太郎／編

M24. 8

BDA-0207